科目名:子ども家庭支援論	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本科目では、子どもと子育てを巡る環境に焦点をあてつつ、子ども・子育てを支える中核としての保育士の役割を明確にすることを第一の目的にします。昨今は児童虐待の問題など、子ども・家庭を巡る環境は複雑化しています。地域の子育てを担う保育者は相談・支援の専門職として、ソーシャルワーク等の知識・技術を身に着けるとても重要です。これらを多角的な視点によって学修することをねらいとします。

授業の到達目標
１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各回の終了時に次回までの課題（概ね1時間程度でできるもの）を出します。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や書籍などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や課題への取り組み状況40％、確認テスト60％

教科書 使用しない	参考図書 授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用ならびに私語を厳禁とします。

01	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
02	子ども家庭支援の目的と昨日
03	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
04	子どもの育ちの喜びの共有
05	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
06	保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
07	家庭の状況に応じた支援
08	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
09	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
11	子ども家庭支援の内容と対象
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
13	地域の子育て家庭への支援
14	要保護児童等およびその家庭に対する支援
15	子ども家庭支援に関する現状と課題（まとめ）と確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:教育関係法規	担当者:小栁 雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
法規（ルール）は常に我々の周りに存在し、日々の生活に様々な影響を与えています。教育（保育）についてもそれは同じです。この授業では現代教育を支える制度について知り、それを踏まえた上で園での教育（保育）活動を円滑に行うための要件について学習していきます。また現在特に求められている地域との関係性づくりや危機管理の取り組みについて、その意義や具体的な在り方について学んでいきます。

授業の到達目標
①現代の教育システムとそれを支える制度について理解する。
②園の経営にかかわる事項（組織論・リーダーシップ論）等について理解する。
③地域と縁の関係性づくりについて理解する。
④園での危機管理の在り方について知る。以上４点を本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業にかかわる準備学修は必要ありません。ただし事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育・保育にかかわる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしましょう。また、それらについて「自分自身の意見を持つ」ことができるようにしてください。

評価方法
①第１回～14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回で実施する確認試験（100点）の合計点（240点）を総合評価します。うち60%（144点）を本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布しますので毎回の授業に持参してください。	教育六法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事柄について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋教育にかかわる制度（法規）をどれくらい知っていますか
02	我が国における教育制度の体系と歴史的変遷
03	子どもの権利と教育制度をめぐる諸問題
04	我が国の教育行政システム①－中央教育行政
05	我が国の教育行政システム②－地方教育行政
06	諸外国の教育行政システムの特徴
07	近年の教育課題とそれに対応する教育政策
08	教育（保育）活動を充実させる方策①－園を組織としてとらえよう
09	教育（保育）活動を充実させる方策②－リーダーの役割を知ろう
10	現代における園の経営課題①－教育者（保育者）の労働実態と協働の在り方
11	現代における園の経営課題②－多様化する子どもと保護者への対応
12	現代における園の経営課題③－保護者・地域との連携と関係構築
13	園における危機管理①－安全教育と安全管理の基本的な考え
14	園における危機管理②－事例・判例から学ぶ具体的な危機管理の在り方
15	確認試験＋最終講義－教育者（保育者）に求められるリーガルマインド
16	なし

2020年度シラバス

科目名:特別支援教育論	担当者:山下 直樹・亀山 洋光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】障害児入所施設児童指導員　保育カウンセラー
本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障がいのある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。
本講義では、特別支援教育とは何かを理解することから始め、障がい児（者）教育の歴史や制度、障がいの種類と程度に応じた教育の基本的特性について、さらに、障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもの教育について学んでいきます。また、保育学生として障がい児（者）との望ましいかかわりを考えられるようになることを目標とします。

授業の到達目標
1. 障がいの概念について理解する。
2. 各障がいの種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。
3. 障がい児（者）とかかわる際の基本的態度を養う。
4. 保育学生として障がいのある子どもへの受容的行動について考え、主体的な学習意欲を高められるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障がいを持つ子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
小林徹・栗山宣夫「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」　株式会社　みらい 小林徹・栗山宣夫編「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」みらい	授業時にお知らせします

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学修が進んでいくと「障がいとは？」「人間とは？」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

01	特別支援教育とはなにか
02	通常学級における発達障がいのある子どもへの教育
03	様々な障がいについての理解
04	発達障がいのある子どもへの具体的支援
05	個別の指導計画と教育支援計画
06	特別な教育的ニーズのある子どもへの支援
07	世界のインクルーシブ教育の動向と課題
08	日本におけるインクルーシブ教育システムの構築
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:幼児理解の理論と方法	担当者:山下 直樹・岡本 加苗	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育カウンセラー　スクールカウンセラー
この授業では、担当者が保育カウンセラーであることを踏まえて実践的に授業を実施します。
主な授業内容は、以下の２点です。
１、幼児理解に必要な理論的視点について、幼児教育の中で起こる種々の事例に当てはめて考察できるようにする。
２、子どもの発達について、認知能力、言語獲得、自己意識や社会性として捉え、保育者の果たす役割について理解する。

授業の到達目標
この授業では、以下の内容について学びます。
①基盤となる理論および幼児教育の特質と関連を理解する。
②幼児理解の具体的な技法である、観察や面接の実際を理解し身につける。
③幼児理解に関連する具体的実践と、特別支援教育、幼少接続との関連を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学修したことだけでなく、実習で触れ合った子どもや日常生活でみる子どもをよく観察し、なるべくたくさんかかわることをお勧めします。そうすることで、より具体的な子どもへの理解が深まります。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
後日指示します。	授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
発達心理学や臨床心理学、カウンセリングについての本など読んでみると、さらに視野が広がると思います。

01	幼児理解の意義と理論①　幼児期の発達と学び
02	幼児理解の意義と理論②　幼児教育における幼児理解
03	幼児理解の意義と理論③　幼児を理解するための教師の態度
04	幼児理解の方法①　幼児理解の目的と方法
05	幼児理解の方法②　保育者の自己理解と保育
06	幼児理解の方法③　幼児のつまずきの理解とその対応
07	特別支援教育と幼児理解
08	幼児理解の今日的課題
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:幼児教育相談	担当者:山下 直樹・岡本 加苗	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育カウンセラー　スクールカウンセラー
「幼児教育相談」は、保育カウンセラー、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、保護者の子育て支援をすることがテーマになります。
この授業では、教育者として必要となる教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な理論や具体的な方法を整理する。授業は、演習や事例を多く取り入れながら行います。学生自身で感じ、考えることで教育者として求められるカウンセリングマインドについて学びます。

授業の到達目標
「幼児教育相談」は、教育者として子どもの発達状況を理解し、子どもが好ましいい人間関係を築き、集団の中での適応力を育みながら成長していくことを支援するのがテーマになります。また、支援に必要な基礎的知識を身につけるとともに、教育者としての自分自身を理解することを目標とします。この授業では、ロールプレイやグループワークなど、より実践に近い形でカウンセリングマインドを身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
幼児教育の中でカウンセリングを生かすには、カウンセリングマインドの習得が欠かせません。授業で学んだことを基礎としながら、日常生活でも家族や友人と会話する際に、話された内容に積極的な関心を持ち、共感的に理解するよう実践することとします。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
後日指示します。	授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
発達心理学や臨床心理学、カウンセリングについての本など読んでみると、さらに視野が広がると思います。

01	オリエンテーション／教育相談の意義と理論 オリエンテーション／教育相談の意義と理論 オリエンテーション／教育相談の意義と理論 オリエンテーション／教育相談の意義と理論
02	教育相談の理論と方法 教育相談の理論と方法
03	「問題行動」から理解する子どもの発達
04	保護者との関係づくりとカウンセリングマインド
05	受容と共感のカウンセリング体験
06	子ども・保護者に対する教育相談とその具体的方法
07	地域資源の活用と関係機関との連携
08	特別な配慮を要する子どもの保護者への教育相談
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:子どもの食と栄養Ⅰ	担当者:小川 雄二	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育者として必要な子どもの食と栄養についての専門知識を学び、それを基礎にして保育現場で「離乳食」「食育」「アレルギー対応」などを実践することができるスキルと将来にわたって学び続けることができる関心の広がりを身につけるための授業です。子どもの食と栄養の基本的事項について学習します。この授業でも学習は、後期の子どもの食と栄養Ⅱでの学習の基礎になります。講義は配布されたレジュメにそって進行します。

授業の到達目標
「子どもの食と栄養」についての専門的知識を学び、保育者として乳児期、離乳期、移行期の食事指導、幼児期の食育、アレルギー対応ができる実践力を身につけます。具体的な目標としては①子どもの体の発育や摂食能力・食習慣の発達を理解すること、②食品の成分や栄養素の知識を確かなものにすること、③乳児期、離乳期、移行期、幼児期の食事と発達の特徴を把握することです。その力を踏まえて、④保育園・幼稚園・こども園で子どもと保護者に対する食育に取組むための実践力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内容を記載したプリントを事前に配布しますので準備学習に活用してください。保育実習・教育実習の際には子どもの給食、給食指導、おやつの様子、離乳食や園での食育の取り組み、アレルギー対応の実際をよく見てきて下さい。保育園の食育計画についても見せてもらってください。授業で提示された課題やレポートにも取組んでください。さらに、ふだんの自分自身の食生活についても見直すとともに、栽培・収穫体験や食事を作ったりすることにも取組んで下さい。

評価方法
授業への参加態度20%　筆記試験80%

教科書 使用しません。	参考図書 保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	子どもの心身の健康と栄養・食生活
02	栄養素の基本概念と栄養素のはたらき
03	授乳期の発達と食事
04	離乳期・移行期の発達と食事
05	幼児期の食育の基本
06	幼児期の食育の実践
07	アレルギーの最新基礎知識と対応Ⅰ
08	アレルギーの最新基礎知識と対応Ⅱ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	離乳食演習Ⅰ　離乳の進め方
18	離乳期演習Ⅱ(5～6 、7～8ケ月)
19	離乳期演習Ⅲ(9～11 、12～18ケ月)
20	幼児食演習Ⅰ（幼児期の栄養の特徴)
21	幼児食演習Ⅱ（幼児期の食事実践演習)
22	食物アレルギー演習Ⅰ食物アレルギー演習Ⅰ
23	食物アレルギー演習Ⅱ
24	間食演習Ⅰ
25	間食演習Ⅱ
26	行事食演習Ⅰ
27	行事食演習Ⅱ
28	幼児期弁当演習
29	子どもの食と栄養総合演習
30	子どもの食と栄養総合演習

31	子どもの食と栄養のまとめ

科目名:子どもの食と栄養Ⅱ	担当者:小川 雄二・近藤 真由美	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育者として必要な子どもの食と栄養についての専門知識を学び、それを基礎にして保育現場で食育を実践することができるスキルと将来にわたって学び続けることができる関心の広がりを身につけるための授業です。子どもの食と栄養Ⅰで学んだ食と栄養の基本的事項をふまえて、子どもの発達や食事形態に沿った演習とグループでの調理実習によって体験的・実践的に学びます。事前に配布されたレジュメにそって授業を進行します。

授業の到達目標
演習と実習で保育者として食事指導と食育に取組むことができる実践力を身につけます。具体的な目標としては①子どもの体の発育や摂食能力・食習慣の発達を実践的に理解すること、②食品の成分や栄養素の知識を実習を通して確かなものにすること、③乳児期、離乳期、幼児期、学童期の栄養と発達の特徴を実践的に把握すること、④子どもの食に関わる諸問題とその対応を学ぶことです。その力を踏まえて、⑤保育園・幼稚園で子どもと保護者に対する食育に取組むための実践力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内容を記載したプリントを事前に配布しますので準備学習に活用してください。保育実習・教育実習の際には子どもの給食、給食指導、おやつの様子や園での食育の取り組みをよく見てきて下さい。保育園の食育計画についても見せてもらってください。授業で提示された課題やレポートにも取組んでください。さらに、ふだんの自分自身の食生活についても見直すとともに、栽培・収穫体験や食事を作ったりすることにも取組んで下さい。

評価方法
授業への参加態度40%　レポート10%、筆記試験50%

教科書	参考図書
『子どもの食と栄養演習書』小川雄二編著医歯薬出版	保育所保育指針、保育所における食育に関する指針、保育所における食事の提供ガイドライン

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	乳児栄養演習Ⅰ
02	乳児栄養演習Ⅱ
03	離乳初期・中期演習Ⅰ
04	離乳初期・中期演習Ⅱ
05	離乳後期・完了期演習Ⅰ 日本人の食事摂取基準 食品と献立作成の基礎知識 子どもの発育・発達と栄養 味覚と嗜好（味覚と嗜好についての演習）
06	離乳後期・完了期演習Ⅰ
07	幼児食演習
08	食育演習
09	間食演習Ⅰ
10	間食演習Ⅱ
11	行事食演習Ⅰ
12	行事食演習Ⅱ
13	幼児期弁当演習Ⅰ
14	幼児期弁当演習Ⅱ
15	子どもの食と栄養総合演習Ⅰ
16	子どもの食と栄養総合演習Ⅱ
17	離乳食演習Ⅰ　離乳の進め方
18	離乳期演習Ⅱ(5～6 、7～8ケ月)
19	離乳期演習Ⅲ(9～11 、12～18ケ月)
20	幼児食演習Ⅰ（幼児期の栄養の特徴）
21	幼児食演習Ⅱ（幼児期の食事実践演習）
22	食物アレルギー演習Ⅰ食物アレルギー演習Ⅰ
23	食物アレルギー演習Ⅱ
24	間食演習Ⅰ
25	間食演習Ⅱ
26	行事食演習Ⅰ
27	行事食演習Ⅱ

28	幼児期弁当演習
29	子どもの食と栄養総合演習
30	子どもの食と栄養総合演習
31	子どもの食と栄養のまとめ

科目名:保育カリキュラム論	担当者:小島 千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
この授業科目は、元保育園長の経験を踏まえ、保育者が子どものよりよい成長を願い、子どもとともに遊びや生活を創り出すことができる「計画に基づいた実践」について、その仕組みや考え方、作成の方法、省察の意義と方法について具体的に考える。全体的な計画や具体的な指導計画は、保育者の意図や目的のないままに行われることはない。実践経験をもとに保育者の子ども理解や保育観が計画実践に影響を及すことを理解できるようにするとともに、計画作成を授業内で体験的に学べるようにする。【AL】

授業の到達目標
保育のカリキュラムとは何か理解する。教育・保育課程(全体的な計画)編成についての考え方や、編成に必要な関係法規、作成方法について具体的に知識を深める。編成にとって必要な子ども理解や子どもの育ちを支える環境等についても知識、理解を深められるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育に関する法規、特に改定のあった3法令については、新要領や新指針をよく読むようにすること。子どもを取り巻く環境の変化や、社会問題にも関心を深められるように、日々のニュースや新聞記事などにも関心を持って目を通すようにする。

評価方法
課題レポート50%　各授業での小レポート30%　授業の振り返り　20%

教科書	参考図書
保育カリキュラム論　建帛社	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説書　幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもが主体的に遊ぶことができる環境づくり、計画づくりを考えましょう。わからないことは「聞く」「調べる」「考える」を実践しましょう。

01	保育カリキュラムとは
02	教育・保育課程の意味　保育をデザインすることについて
03	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと①　関係法規
04	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと②　子どもの発達理解　発達過程の見直し
05	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと③　地域や家庭環境の実態の理解と連携
06	教育・保育課程(全体的な計画)編成に必要なこと④　子どもを取り巻く環境・社会問題
07	保育の計画と評価の意義
08	PDCAサイクルの考え方と意義　省察の方法
09	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育計画との関連
10	教育・保育課程(全体的な計画)編成と展開
11	教育・保育課程(全体的な計画)から指導計画へ
12	指導計画立案の考え方と方法　基本的視座
13	指導計画立案の考え方と方法　子どもの姿を計画に反映するために
14	指導計画立案の考え方と方法　実際に立案してみよう
15	まとめ　保育実践に活かす　教育・保育課程(全体的な計画)作成のために
16	

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:渡部 努	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【授業概要】
乳幼児期は、健康で安全に生活していく為の生きる力の基礎を培い、必要な習慣や態度を身につける重要な時期であることを理解する。その上で、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示される領域「健康」のねらいや内容、内容の取り扱いについて理解し、健康で安全な生活を身につける力を養うための基本的な知識と指導方法を習得する。特に乳幼児期の生活習慣や心身の発達に関する今日的な課題を理解し、指導方法を身につける。
【授業方法】前半では講義形式を中心に行い、後半はグループ学習・プレゼンテーション・模擬保育を行う。

授業の到達目標
(1)幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示される基本原則に基づき、領域「健康」のねらい、内容、内容の取り扱いについて理解し、説明することができる。
(2)乳幼児期の発達の過程を踏まえ、乳幼児が経験し、身に付けていく内容とそれに対する保育方法を理解し、自分の考えを表すことができる。
(3)計画・実践・評価・改善の保育実践のサイクルの理解に基づいた指導計画を作成することができ、保育を改善したり、工夫したりすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
◦授業前には授業内容を教科書で確認する。（毎回の授業につき60分）
◦授業後はレジュメの整理をし、内容の振り返りを行う。（毎回の授業につき60分）
◦乳幼児の健康に関する資料収集及び課題発表・模擬保育の準備を行う。（毎回の授業につき120分）

評価方法
授業への参加態度・提出物(20%)　課題発表・模擬保育（40%）　小テスト・確認テスト(40%)　計100%

教科書	参考図書
『健康　（新・保育実践を支える）』　津金美智子・小野隆（編著）　福村出版	『保育内容 健康[第2版]（新時代の保育双書）』春日 晃章他（編集）　みらい 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は、授業内で知らせる。

01	オリエンテーション・保育内容における「健康」とは
02	領域「健康」の捉え方
03	からだの発育・発達と健康
04	こころの発達と健康
05	保育における運動遊びの指導と留意点
06	健康な生活リズム・基本的生活習慣の理解
07	乳幼児の生活習慣の指導・援助と子育て支援
08	保育における安全管理と安全教育
09	領域「健康」の指導計画と展開
10	保育における健康管理と保健指導
11	保育における運動遊びの指導実践
12	乳幼児の生活習慣に関する健康問題と指導法の探求　発表・模擬保育及び質疑応答
13	乳幼児の食習慣に関する健康問題と指導法の探求　発表・模擬保育及び質疑応答
14	乳幼児の運動に関する健康問題と指導法の探求　発表・模擬保育及び質疑応答
15	まとめと確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:堀 建治	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する。本授業は子どもの発達の姿を理解し、保育のうえでどのように取り組むかを、幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。さらに、幼児が自己充実を深め生活リズムの獲得や乳幼児の育ちを支える保育者の役割や指導法、評価のあり方について学ぶ。本授業では、毎時間、グループワーク等、学生からの意見を聴取して、知見を深める。

授業の到達目標
・領域「健康」について「ねらい」や「内容」等について理解ができる。
・子どもの発達の姿を通して、乳幼児、あるいは人間にかかわる「健康」について知見が深めることができる。
・基本的生活習慣の獲得や確立、安全にかかわる意識の育成を図ることの大切さについて理解ができる。
・領域「健康」の特性に応じた課題や保育実践の動向を知り、保育の質向上に取り組むことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前学修：授業内容を教科書で確認し、トピックとなる事項について学習する（1.5時間）。事後学習：ノート等で授業での学びを振り返り、必要に応じて関連文献での補い学習をする（1.5時間）。グループ学習時：図書館での資料収集やプレゼンに向けての練習（1.5時間）

評価方法
確認試験（70%）、リアクションペーパー、発表、課題提出等（30%）・確認試験については、専門職として必要な知識の理解度について２回実施、評価する。・シャトルカード、発表、課題については、質・量を勘案して評価する。

教科書	参考図書
新時代の保育双書　保育内容健康	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本科目は将来保育者として必須となっている。保育者としてふさわしい態度やマナーをもって取り組むこと。特に私語、携帯電話やスマートフォン操作、居眠り等は厳しく指導する。質問等があれば、授業前後に直接尋ねるか、もしくはシャトルカードに記載すること。

01	オリエンテーション（授業の進め方）
02	領域「健康」の「ねらい」①（総論）
03	領域「健康」の「ねらい」②（各論）
04	領域「健康」の「内容」①（総論：グループ学習）
05	領域「健康」の「内容」②（各論：グループ学習）
06	領域「健康」の「内容」③（成果発表と「内容の取扱い」）
07	子どもの発達と運動遊びの意義
08	「遊び」教材研究・第１回確認試験
09	運動能力と運動遊びのかかわり
10	運動遊びの指導上のねらいと留意点・指導計画の作成
11	子どもの健康と基本的生活習慣
12	安全管理と安全教育 安全管理と安全教育
13	子どもにとっての健康とは①（からだ・こころ）
14	子どもにとっての健康とは②（社会）
15	まとめ・第２回確認テスト
16	

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:水落 洋志	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期は、将来健康な人間として生活していくための基礎を培う重要な時期である。本科目では、乳幼児の心身の健康に関する内容、基本的な生活習慣、運動的活動に関する内容を中心に、心身の調和のとれた発達について、講義や演習から学習する。この学びを通して、保育者としての高度な専門性を備え、理論と実践を結びつけ、子どもたちの健康な生活を営むための役割などについて、準備学習や意見交換を通じて理解を深める。

授業の到達目標
(1)領域「健康」に示されるねらいや内容を理解する。
(2)領域「健康」を通じて心身の発育・発達の年次的変化や特性、援助等について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：次回、実施予定範囲の教科書を熟読すること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくこと。
事後学修：学修した内容の振り返り（ノート）及び理解不足の箇所について復習すること。
毎回の準備・事後学修にかかる時間は概ね４時間程度。

評価方法
確認テスト（60%）、提出物（20%）、授業への参加態度等（20%）で評価する。
学生に課題を課した際は、解説を行い結果をフィードバックする。

教科書	参考図書
新時代の保育双書 保育内容健康（株)みらい	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当者に連絡が取りたい場合は、教務課へ申し出る。

01	保育内容における「健康」とは
02	子どもの生活と健康について
03	乳幼児期の身体の発育・発達（１）
04	乳幼児期の身体の発育・発達（２）
05	乳幼児期の運動能力の発達
06	基本的生活習慣（１）
07	基本的生活習慣（２）
08	健康な生活のリズムとは
09	乳児のあそびと運動（１）
10	乳児のあそびと運動（２）
11	領域「健康」のねらいと内容（１）
12	領域「健康」のねらいと内容（２）
13	安全管理（事故と予防）
14	安全管理（安全対策）
15	子どもの健康生活と保育者の基本的な役割、確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と環境」	担当者:青山 裕美・朴 信永	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育園での実務経験を踏まえ、乳幼児期の子どもが保育所や幼稚園などの場で主体的に周囲の環境とかかわり育っていく過程と、保育者としての乳幼児の環境をとらえるための視点について具体的に学ぶことができるようにする。さらに指導案の作成に導く。【AL】

乳幼児を取り巻く環境や乳幼児と環境とのかかわりについての現状や課題を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。
乳幼児の「環境」にかかわる具体的な場面を想定し、発達に応じた保育の構想、指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
・幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、就学後への見通しを持つ。
・環境に主体的にかかわる乳幼児の心情・認識・思考・行動を理解し、他の領域との関連性を理解したうえで保育場面を構想し具体的に計画する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・実習で、乳幼児と周囲の環境との関係性を感性豊かな視点で観察すること
・実習で、保育室内や園庭の環境設定を丁寧にとらえ、再構成される理由や意味について質問したり考察したりすること

評価方法
授業・討議への参加態度（30%）　提出物（30%）　確認テスト（40%）

教科書	参考図書
なし　適宜配布	幼稚園教育要領　保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	教育・保育における「環境」
02	好奇心・探求心を育てる環境　思考力の芽生えを育む環境
03	子どもの育ちと「環境」（乳幼児の興味関心を誘う環境）
04	子どもと飼育・栽培
05	子どもと自然①　土・砂・水等の自然、樹木・草花等の自然（戸外における実践活動）
06	子どもと自然②　土・砂・水等の自然、樹木・草花等の自然（記録・内容の分析）
07	子どもと自然③　土・砂・水等の自然、樹木・草花等の自然（指導計画の立案）
08	子どもと身近な物①　物の性質や仕組み
09	子どもと身近な物②　玩具・遊具・用具・道具（環境構成を考える）
10	子どもと身近な素材①　身近にある素材の魅力（遊びの実践活動）
11	子どもと身近な素材②　身近にある素材で遊ぶ中で育つもの（指導方法の構想と指導計画の立案）
12	子どもと環境のかかわり　数量や文字・記号
13	子どもと暮らし（大切なこと、大切なもの）　道徳性、文化や伝統、地域社会
14	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、環境を通した教育・保育の課題
15	まとめ　確認テスト
16	

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指し、保育内容の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。子どもの言葉とは何か、言葉の発達とは、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
２　言葉とは何か、言葉の発達過程について説明することができる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや絵本などとの関わりを理解し、実践できる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を40%、絵本ノートと絵本の制作を40%、最後の確認テスト20%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（子どもと言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	言葉と児童文化財　－教材の種類（絵本、ペープサート、パネルシアター）
05	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせについて－
06	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせの実演－
07	子どもの言葉の発達　－乳児の言葉の発達－
08	子どもの言葉の発達　－２～３歳児の言葉の発達－
09	子どもの言葉の発達　－４～５歳児の言葉の発達－
10	保育内容の領域「言葉」－幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「言葉」－
11	保育内容の領域「言葉」－領域「言葉」と教科「国語」との関係－
12	言葉と絵本　－世界で一つだけの手作り絵本－
13	言葉と絵本　－絵コンテ作り－
14	言葉と絵本　－絵本の制作と実演－
15	まとめと確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:太田 昌孝	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
言葉は人間固有のコミュニケーションツールであるだけではなく、人間が人間として生きて行く為の中枢である。本講義では乳幼児期における言葉の習得の基礎を学ぶと共に、子どもたちの生活と言葉との関係についてその基礎的事項を習得する。

授業の到達目標
① 言葉の持つ基本的性質について理解する。
② 乳幼児の言葉の発達過程を理解する。
③ 言葉を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
① 日常生活の中で、常に子どもの言葉に耳を傾けるようにする。
② 絵本の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を練磨する。

評価方法
課題、(20) 授業態度、(10)レポート、(70)を通じて総合的に評価する。

教科書	参考図書
『保育内容・言葉』 (同文書院)	『本が好きな子に育つために』(萌文書林)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 系統的な講義になるので欠席をしないようにすること。
② 講義におけるマナーを遵守し、学生としての本分を忘れないようにすること。
③ 連絡方法については講義で指示する。

01	オリエンテーション 「言葉」とは何か。
02	幼稚園教育要領・保育所保育方針「言葉」の領域について。
03	テキスト第1章 「子どものことばと育ち」
04	テキスト第2章 「領域『言葉』とはなにか①。
05	テキスト第3章「ことばの発達」①
06	テキスト第4章「子どものことばと保育者」②
07	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」①
08	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」②
09	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」③
10	テキスト第5章「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」④
11	テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」①
12	テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」②
13	テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」③
14	テキスト第9章「想像やことばのリズムを楽しむ」①
15	講義のまとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:杉山 実加	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の言葉の発達段階や言葉の役割など、子どもの言葉の豊かさを養うために必要な基礎的事項を学ぶ。授業ではグループワークを始めとするアクティブラーニングを各回で行うとともに、体験・動画視聴など多様な学習方法を通して理論的・実践的に学びを深める。授業内の読み・書き・対話といった活動を通して学生自身の言葉もより豊かになることを目指す。【AL】

授業の到達目標
1、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解する
2、乳幼児の言葉の発達段階や学びの過程を理解する
3、具体的な実践例に基づき、子どもとの関わりや保育について考えることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1、ざまな表現や語彙に関心を持ち、それらを積極的に活用するなど、日常生活の中で自らの言語表現能力を豊かにするよう心掛ける
2、絵本や紙芝居などの児童文化財を実際に読み、そのおもしろさを体感する

評価方法
授業態度　10%　授業内課題　50%　確認テスト　40%

教科書	参考図書
なし	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内のグループワーク・課題が学びを深めるために重要となるため、積極的に取り組むこと。
授業ごとに到達目標を段階的に提示するため、目指す到達点を自分で設定して受講すること。

01	オリエンテーション　授業の全体の流れ・領域言葉のねらい
02	五領域における言葉の役割―他領域との関連性
03	乳児の言葉の発達―0歳児
04	乳児の言葉の発達―1.2歳児
05	幼児の言葉の発達―3～5歳児
06	事例を通して学ぶⅠ　保育者と子どもの言葉
07	事例を通して学ぶⅡ　子ども同士の言葉
08	事例を通して学ぶⅢ　子どもの集団の言葉
09	発達の遅れと支援方法
10	教材研究・指導案作成（絵本・紙芝居）
11	グループ発表
12	絵本にオリジナルの物語をつける
13	小学校での学びと幼児期の経験の繋がり
14	保育者として言葉を豊かにする
15	授業のまとめ　確認テスト
16	なし

科目名:保育内容指導法「生活と表現」	担当者:高田 吉朗・高須 裕美・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法 子どもの生活において、経験を通した感性の育ちやイメージの形成が大切である。この授業では、オムニバス形式で、造形表現、音楽表現、身体表現、言葉，現場での実践的表現を学ぶ。また、子どもが周りの世界と意欲的に関わり、様々な方法でイメージを膨らませ表現して遊ぶことの意義や保育者自身の表現力を鍛える。
授業の到達目標 2年次に行われる実習での学びと連動しながら、現場でも役に立つ実践的な表現力とその技術を学ぶ。子どもと保育者の感性豊かな表現の重要性を認識できるようにする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 常に子どもにどのように伝えるかを想定しながら感性豊かな生活を心掛ける。後期に実施する総合表現では、授業外での打ち合わせ、リハーサル、練習の積み重ねが必須である。
評価方法 最後に行う総合活動としての「音楽劇」のグループ発表30%、各分野の小テストや造形分野のスケッチブック20%、出席状況を含めた受講態度50%

教科書	参考図書 「楽しさはじける表現あそび」 明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 自分自身の感性を豊かにするために、見たり、聴いたり、触れたりする経験をすること。

01	造形表現とは（春の工作）
02	音楽表現とは（身体表現）
03	領域「表現」とは
04	題材を選ぶポイント（実習に向けて）
05	身体の諸感覚を使った遊びが紡ぐ表現
06	乳幼児の発達と表現１
07	絵から分かる子どもの心（略画）
08	身体やリズム遊びが紡ぐ表現
09	乳幼児の発達と表現２
10	子どもの絵の発達（七夕工作）
11	身体表現でのストーリー制作
12	保育者が支える表現１
13	子どもの絵の特徴（実習に向けて）
14	音楽表現の模擬保育１
15	保育者が支える表現2
16	絵による制作の基本
17	音楽表現の模擬保育２
18	ごっこ遊びから劇遊びへ/音楽劇の準備
19	音楽劇の制作
20	音楽劇の制作
21	音楽劇の制作
22	音楽劇の制作
23	音楽劇の制作
24	音楽劇の制作
25	音楽劇の制作
26	音楽劇の制作
27	音楽劇の制作
28	音楽劇の制作
29	音楽劇の制作
30	音楽劇の制作
31	音楽劇の発表

2020年度シラバス

科目名:幼児教育指導法	担当者:杉山 実加	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育のねらいを達成するために必要な指導・援助を行うために必要な理論や技術について理論的に学ぶとともに、その知識を活用したグループワークなどの実践的な学びを通して、子どもの主体性や個性を尊重した指導の在り方について学ぶ。【AL】

授業の到達目標
1、保育の形態・方法・環境構成について理解する。
2、保育内容の指導に必要な基本的姿勢と考え方を理解する。
3、効果的な情報機器及び教材の作成・提示の仕方を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1、日常生活の中で、さまざまな保育形態・方法に関心を持つようにする。
2、授業での学びと実習での学びを結び付けることで、より深い理解を目指す。

評価方法
授業態度10%、授業内課題50%、確認テスト40%

教科書	参考図書
なし	実践を創造する幼児教育の方法：みらい、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
1、授業では他者との学び合いの機会を大切にし、さまざまなメンバーと学ぶことを通して、コミュニケーションや傾聴の技術も向上するよう意識すること。
2、授業ごとにルーブリック評価を提示するため、自身で学ぶ目的と到達目標を意識して授業に臨むこと。

01	オリエンテーション　大人と子どもの違いについて考える
02	幼児教育における指導の特性Ⅰ　総合的な指導
03	幼児教育における指導の特性Ⅱ　個と集団
04	環境を通しての保育
05	遊びの指導・援助
06	生活の指導・援助
07	園行事の指導・援助
08	具体例をもとに指導について考えるⅠ（遊びの展開を考える）
09	具体例をもとに指導について考えるⅡ（絵本と遊びのつながり）
10	具体例をもとに指導について考えるⅢ（身近な素材を遊びに生かす）
11	小学校との連繋の方法・援助の在り方
12	保育における情報機器の活用方法
13	諸外国の保育方法Ⅰ
14	諸外国の保育方法Ⅱ
15	授業のまとめ　確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:児童文化	担当者:太田 昌孝・杉山 実/加・緑川 幸成	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童文化とは、長年にわたり受け継がれてきた文化や歴史などを背景に、現在へと受け継がれた【文化財】である。保育者は子どもとこの【文化財】を仲立ちにして保育活動を行いながら、次世代を担う存在にこの【文化財】を継承させるという使命を負っている。本講義では「伝承遊び」、「童謡」、「年中行事」の三方面から、児童文化の持つ効用、背景、保育現場での活用の仕方について理解を深める。

授業の到達目標
①保育における「年中行事」「伝承遊び」「童謡」の背景と意義、そして成立過程などについて深く理解し、それらを保育現場において、効果的かつ段階的に学ばせるためには何が必要であるかについて、深く学ぶ。
②児童文化を一つのテキスト（場）として捉え、保育における理論と実践の関係について正確に理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から、年中行事、伝承遊び、童謡に興味を抱き、関連する書籍などを読む。また、実際に行事等に参加して、見識を深めるように心がける。

評価方法
レポート80%。講義内課題20%。

教科書	参考図書
各担当教員がプリント等を用意する。	講義内で適宜、紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれが系統的な講義なので、欠席しないようにする。各担当の講義を三回休んだ時点で、単位取得の可否に関わる事象が発生するので十分注意すること。

01	オリエンテーション・各担当から講義の概要説明
02	児童文化とは・カルタ作り①
03	児童文化の歴史・カルタ作り②
04	積木の特徴・カルタ作り③
05	伝承遊び・あやとり
06	素話の魅力と保育者の準備　（杉山）
07	保育における童謡の必要性について学ぶ
08	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める①（伝統的作品）
09	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める②（伝統的作品）
10	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める③（現代的作品）
11	保育現場で歌われている代表的な童謡の成立背景を知り、理解を深める④（現代的作品）（緑川）
12	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（春）
13	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（夏）
14	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（秋）
15	年中行事の背景と保育現場での活用方法について学ぶ（冬）
16	保育現場における【フォークロア】の効果的利用について学ぶ　（太田）

2020年度シラバス

科目名:音楽Ⅱ（弾き歌い）	担当者:高須 裕美・高田 伸子・堀ノ内 宏子・槌田 幸子・鈴置 育代・東島 佳子・笠木 厚憲	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:音楽Ⅰ単位修得者を対象とする。		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
音楽Ⅰの受講記録（レッスンノート）によりクラス編成を行う。保育者の音楽表現技術の一つであるピアノを使った「弾き歌い」を中心に学修する。音楽Ⅰで使用したテキスト「子どもの歌130選」、また実習における課題、実習園から配布、指定された曲も学修する。最終授業週には、実技発表を行い評価する。

授業の到達目標
ピアノを弾くことだけではなく、歌うことへの意識を高める。子どもは文字ではなく、聴覚や視覚情報を頼りに歌を覚えていく。そのため、保育者が「うた」の詩（詞）をよく読み意味を理解し、その背景を学び、どのように歌を伝えていくのか、15～20曲の弾き歌いレパートリーを持ち、幅広い表現方法のあり方について実践的に学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃の練習はもちろんのこと、実習先から指定された課題曲も含め、できる限り多くの曲の背景を知り、歌詞について学び、音楽技術のみならず、いかに保育実践で展開するのかについて考える。声を出すこと、子音を明確に歌うこと、正しい呼吸で歌うことについて、自分の歌を録音したり人の歌を観察したりしながら、歌の大切さについて意識すること。

評価方法
授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い40%　発表（実技）60%

教科書	参考図書
幼児の歌130選（繁下和雄編　全国社会福祉協議会刊）、その他、実習園から指定された曲、配布プリントなど。	子どものうた200（チャイルド本社刊）その他、弾き歌い曲の楽譜など。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	クラス編成およびガイダンス、今後の学修計画の確立。
02	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
03	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
04	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
05	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
06	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
07	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
08	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
09	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
10	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
11	レッスン授業（30選弾き歌いの学修）
12	発表曲の選曲＋学修
13	発表曲の選曲＋学修
14	発表曲の学修
15	発表
16	まとめ

科目名:音楽Ⅲ（弾き歌い・声楽）	担当者:高須 裕美・高田 伸子・堀ノ内 宏子・槌田 幸子・鈴置 育代・東島 佳子・笠木 厚憲	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:音楽Ⅱ受講者		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
声楽教員の指導の下、歌うことに集中した授業である。弾き歌いのレパートリーを広げること、唱歌、童謡、子どもの歌の伴奏をする。また保育者を目指す学生が、声帯に無理のない歌唱で「声楽アンサンブル」を経験し、互いの声を聴き合いながら、歌うことの楽しさと技術、感性を修得していく。

授業の到達目標
保育者に必要な「声楽アンサンブル（歌唱）」を中心に授業を進め、独唱・二重唱・三重唱などのあらゆる形態を通し、無理のない発声による歌い方を修得する。また、弾き歌いも引き続き学修しレパートリーを増やす。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
個人の弾き歌いの自宅・大学での練習、アンサンブルのパートナーとの音合わせは必須である。

評価方法
実技試験60%（声楽アンサンブル30%　弾き歌い30%）平常点40%※平常点は開講中の学修態度・到達度・出席状況による評価である。

教科書	参考図書
「幼児の歌　130選」繁下和雄編（全国社会福祉協議会）（音楽Ⅰ・Ⅱと同じテキスト）	「教育や保育に携わる人々のための　新・声楽指導教本」教育芸術社刊（弾き歌いコースは不要）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	レッスン授業（自己紹介、発声、歌唱）
02	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
03	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
04	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
05	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
06	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
07	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
08	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
09	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
10	レッスン授業（発声、歌唱、弾き歌い）
11	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
12	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
13	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
14	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌いなど
15	課題曲の学修、伴奏合わせ、弾き歌い発表
16	まとめ（アンサンブル）

科目名:体育	担当者:平野 朋枝・山下 晋・横山 龍子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシーの1（理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連し、履修系統図では「保育の技術を支える基礎的な技能」として位置づけられている。自分の体育的技能を高める中で保育の力量形成にいかすことを目的としている。授業では様々な運動を行い、運動技能の向上を図るとともに、運動遊びへの理解を深める。あわせて、幼児期の子どもたちが、自分のからだを動かす喜び、技を身につける面白さ、仲間とともに運動する楽しさを味わうことができるようにする体育指導の考え方や技術・知識を身につける。
　なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
　①様々な運動を経験して、運動技能の向上を図るとともに運動遊びの様々な方法を知る。
　②上達を目指して取り組む中で、運動の楽しさを知る。
　③乳幼児期を含む発育期の運動発達の過程を理解する。
　④工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。
　⑤運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・発表等の課題に向けての事前準備を十分に行う。
・学外実習等を通して子どもの運動発達を理解する。
・授業後に、活動内容や自分の気づきを記録する。

評価方法
　実践への取り組みや実技試験の成果（40%）、提出物（30%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。但し、欠席等の授業への不参加と課題の提出遅れや未提出については、これらの総合点より減点する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。実技試験の受験も成績評価には必須である。

教科書	参考図書
指定しない	「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装（各自で用意すること）
・身だしなみでなければ受講を認めない。
・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	ガイダンス・準備運動の指導
02	基本の運動 屋外での運動遊び 基本の運動 屋外での運動遊び 基本の運動 屋外での運動遊び 基本の運動
03	屋外での運動遊び
04	鬼遊び
05	リズム体操①　（様々なリズム体操）
06	リズム体操②　（パラシュート）
07	身近な素材を使った遊び
08	なわを用いた運動遊び①　（様々な縄の使い方）
09	なわを用いた運動遊び②　（縄跳び）
10	フープを用いた運動遊び①
11	フープを用いた運動遊び②
12	ボールを用いた運動遊び①　（基本の蹴動作）
13	ボールを用いた運動遊び②　（サッカー遊び）
14	運動遊びのまとめ（サーキット遊び）
15	実技試験、前期のまとめ
16	身体表現運動①（様々な身体表現運動）
17	身体表現運動②（表現する素材を考える）
18	ボールを用いた運動遊び①　（基本の投・捕動作）
19	ボールを用いた運動遊び②　（投・捕のゲーム）身近な素材を用いた運動遊び
20	器具を用いた運動遊び①（跳び箱）
21	器具を用いた運動遊び②（マット）
22	器具を用いた運動遊び③（鉄棒）
23	幼児を対象とする運動指導実践の準備①　（環境の構成）
24	幼児を対象とする運動指導実践の準備②　（援助方法）

25	幼児を対象とする運動指導実践①　（第1回実践）
26	幼児を対象とする運動指導実践の準備③　（第1回の振り返りと第2回の準備）
27	幼児を対象とする運動指導実践②（第2回実践）
28	幼児を対象とする運動指導実践のまとめ
29	運動遊びのまとめ（模擬運動会）
30	実技試験、まとめ
31	なし

2020年度シラバス

科目名:障害児保育	担当者:山下 直樹・亀山 洋光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】障害児入所施設児童指導員
本授業は、障がい児入所施設児童指導員の経験を活かし、より具体的事例を用いて授業を展開します。保育者として障害のある子どもやその保護者と向き合いいかに理解し支援していくことができるのか体験的に学びます。

保育現場において、障がいを持つ子どもへの理解を深めるために、ここではまず障がいをどのように捉えるのかについて学びます。また、保育現場でよく出会う発達障がいを中心に障がいの特徴や保育現場でできる支援について事例や体験を多く取り入れながら学んでいきます。

授業の到達目標
この授業では、保育者として必要不可欠である、障がいを持つ子どもに対しての理解を深めることを目的とします。また、障がいを持つ子どもを取り巻く理念等の理解を深め、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障がいを持つ子どもの理解と支援は、授業だけでは学びきれませんから、夏休みなどの長期休暇中に施設や地域でのボランティアなど、積極的に子ども達と関わってください。

評価方法
授業への参加態度35%　毎時間のワークシート35%　　確認テスト30%

教科書	参考図書
小林徹・栗山宣夫「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」　株式会社　みらい	授業時にお知らせします

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学修が進んでいくと「障がいとは?」「人間とは?」など、色々な「問い」が生じるかもしれません。学生時代にこうした「問い」を持つことは、将来みなさんが保育者になったとき、必ず心の支えとなると思います。

01	障がい児保育とは〜障がいの捉えかたと保育の歴史
02	子どもの障がいとその理解①：肢体不自由児の理解と保育における発達の援助
03	子どもの発達障がいとその理解②：知的障がい児の理解と保育における発達の援助
04	子どもの発達障がいとその理解③：ASD児の理解と保育における発達の援助
05	子どもの発達障がいとその理解④：LD／ADHD児の理解と保育における発達の援助
06	子どもの発達障がいとその理解⑤：自閉症スペクトラム障がい
07	保護者や家族に対する理解：障がいのある子どもの保護者や家族の感情
08	保護者や家族への支援の方法と実際：地域の中で育つ、専門機関とのかかわり
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:海外の保育と英語	担当者:小野 克志	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:専攻科留学タイプに進学を希望する学生は履修すること。ただし、専攻科に進学しない学生も海外の多様な保育文化について学修したい学生の受講を歓迎する。		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 日本の保育現場にも外国籍の子どもが増えてきたが、本科目では諸外国の子育て、保育の事情について多角的に学び、多様な子育て文化を理解することを目的とする。特にオーストラリアを中心とするオセアニア地域の文化と歴史に触れながら、諸外国の幼児教育の観点を学ぶことを目的とする。
授業の到達目標 諸外国の幼児教育事情を理解し、子どもが育つ文化的背景を理解できる。多様な言語に親しみ、保育や幼児教育に活用する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 インターネットなどを活用し、日頃から国内・海外の保育・幼児教育事情に目を向け、そして英語にも慣れ親しむようにしてください。
評価方法 授業への参加態度　50%　　授業時の発表および課題提出　50%

教科書	参考図書
特になし（適宜プリントを配布します）	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業概要
02	日本の幼児教育・保育の現場 ～諸外国との比較から
03	世界が幼児教育・保育に投資する理由
04	日本の多文化共生保育・幼児教育について
05	海外の多文化共生への取り組み（アメリカ・カナダ・オーストラリア）
06	ヨーロッパの幼児教育・保育 ①（フィンランド）
07	ヨーロッパの幼児教育・保育 ②（オランダ）
08	ヨーロッパの幼児教育・保育 ③（イタリア）
09	ニュージーランドの幼児教育・保育について学ぶ
10	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援
11	異文化コミュニケーション理解について
12	オーストラリアの幼児教育・保育について学ぶ
13	保育現場での英語表現を学ぶ
14	グループワーク①
15	グループワーク②
16	定期試験

2020年度シラバス

科目名:教育実習Ⅱ（事前・事後指導）	担当者:吉田 真弓・未定A・未定B	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
実習園においてより効果的な実習が展開できるよう、園の役割や仕事の内容の大枠を前もって把握し理解するとともに、実習日誌の書き方・指導案の立て方を具体的に学ぶ。また実習後は、自己課題の振り返りやレポートのまとめをしながら、実習の学びを実践力として活かせるようにしたり、自分の今後の課題を明確にしたりする。

授業の到達目標
実習の意義と目的を明確に理解し、保育について総合的に学ぶ。また、実習の円滑な実施のために必要な知識や技術を学ぶとともに、事前の準備をし、実習の課題を明確にする。実習の体験後には、自己評価を通して今後の学習課題を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
幼児の発達段階を復習するとともに、教材の作成、絵本・紙芝居の読み聞かせやピアノの練習等、実習に必要な準備を計画的に自ら進めていくようにする。

評価方法
事前指導（自己課題・指導案）30%　　事後課題（自己課題の振り返り、実習日誌、レポート）50%　　授業態度・参加状況　20%

教科書	参考図書
実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
やむをえず欠席した場合は、必ず指示された課題に取り組むこと。
今までの実習を振り返り、自己課題を明確に持って実習に臨むこと。

01	オリエンテーション、教育実習Ⅱの意義と目的
02	実習の目標と課題
03	教育実習についての理解（幼稚園の機能・幼稚園の生活・教育実習の内容）
04	教育実習についての理解（観察・参加・部分実習・指導実習について）
05	保育実習の反省と教育実習の課題（教育実習に反映できる反省と自己課題の明確化）
06	実習生としての実習態度を考える
07	保育現場の実際について
08	指導案の書き方（１）
09	指導案の書き方（２）
10	指導案の書き方（３）
11	指導案の書き方（４）
12	事前訪問の仕方
13	教育実習の直前指導（実習への心構え・具体的注意事項）
14	実習後の指導（実習における学びと自己課題の振り返り）
15	実習後の指導（実習の総括・実習アンケートによる指導）
16	なし

2020年度シラバス

科目名:教育実習Ⅱ（他幼）	担当者:吉田 真弓・未定A・未定B	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	選択

授業概要と方法 教育実習の意義や目的を理解し、保育現場で保育を体験的実践的に学ぶ。学内での指導をもとに、実習園において３週間の日程を様々な形で経験するとともに、自分自身の課題を再確認する機会とする。
授業の到達目標 自分の課題に向けて積極的に取り組むとともに、現場の保育者の指導を真摯に受け止め、その指導を自分自身の実習に反映させ、探求的で責任のある実習態度で臨み、実りある実習が実現することを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 実習日誌の書き方、指導案の書き方等を復習し、理解を深めておく。また、絵本・歌（ピアノ）・ペープサートやパネルシアター等の教材の準備を進めておく。
評価方法 各実習園からの評価・所見と、実習日誌・実習の振り返り・自己評価等を参考にして、総合的に評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 実習においては精神力も体力も必要とするので、常に健康管理に気を付ける。また、保育者として（子どものモデルとして）ふさわしい言葉づかい、生活態度を常に意識した日常生活を過ごすようにして３週間の実習に臨むようにする。

01	事前訪問 　園の概況・教育方針・指導計画・勤務時間・施設備品等の使用・安全対策・配当学年・歌・服装・持ち物等、多岐にわたるオリエンテーションを受け、実習生としての心の準備とともに教材の準備をする。 実習１週目（観察実習を主とする） 　登園から降園までの１日の保育の流れを把握する。環境の構成・保育者の関わり・保護者への対応・幼児理解等について、２週目以降の実習に活かされるよう、深く綿密な観察を行い実習日誌に記述する。 実習２週目（観察及び部分参加実習を主とする） 　１週目の観察実習に加え、子どもと保育者・子どもと保護者・子ども同士・子どもと環境・意図性のある保育者の援助等、課題をもって観察するとともに、担当指導者の指示に従って様々な部分実習を体験する。 実習3週目（部分及び1日実習を主とする） 　1・2週目における観察・部分実習に対する反省評価を踏まえ、この週では指導実習として1日を任された実習を1～2回行う。指導計画の立案も含めて、環境の構成・教材準備等すべてを責任保育者として行う。また、反省会において、自分の保育の振り返りをし、指導を受けながら保育に対する理解を深める。 その他（各園の園運営に参加） 　子育て支援活動・園行事・職員会等の園運営にも積極的に参加の機会をもつ。 事後訪問（実習終了後1週間以内に） 　3週間の実習指導に対するお礼を兼ねて、実習日誌を提出する。また後日、実習日誌の受け取りをする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:保育実習ＩＢ（事前・事後指導）	担当者:青山 裕美・小島 千恵子・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育での実務経験を踏まえ、保育所における保育士の役割について具体的な話題から、事前に実習の心構えに導く。

保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解する。学内で履修した授業の成果をふまえ、保育現場での保育を体験的かつ実践的に学ぶために必要な準備について、講義や資料を通して具体的に知り実践する。子どもの理解や保育の理解が深まるように、実際に保育の記録、指導計画を書いてみる。また、保育に必要な教材について調べ、活用方法を理解し実践してみる。

授業の到達目標
・保育所の役割や機能や、保育士の職務内容と職業倫理について理解する。
・実習生として自己課題を持ち、目的をもって実習に臨む姿勢を持つ。
・子どもに関心をもって観察や関わりをすることの重要性を理解する。
・記録を通して子ども理解をすることや保育実践のための指導案を書くことなどに向上心をもって取り組む。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
付属幼稚園実習や施設実習の経験や気づき・学びを整理して保育実習における自分の課題を立てる。保育所の役割や子どもとかかわることについて積極的に調べたり、保育の教材研究を進めるなど、自主的に保育関連のことを学修すること。

評価方法
提出課題(40%)、授業の受講態度(30%)、授業の振り返り(30%)を総合して評価する。

教科書 実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	参考図書 保育所保育指針　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
あらゆる側面から保育について考える習慣を身につけ、自主的に実習準備ができるように心がけること。

01	保育実習の意義（実習の目的、実習の概要、留意事項）・保育実習関係書類作成等の事務手続き
02	保育所の機能と役割・事前訪問（実習園オリエンテーション）について・実習の自己課題
03	子どもの最善の利益を考慮した保育を具体的に学ぶ・個人情報・守秘義務について
04	保育者の専門性と役割・保育倫理について(全国保育士会倫理綱領)
05	子どもを理解することについて
06	子どもとの遊び　教材について
07	保育の記録の書き方①
08	保育の記録の書き方②
09	部分指導案の考え方と立案の手順
10	実習直前指導(心構えと準備の確認)
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:保育実習Ⅱ（事前・事後指導）	担当者:杉山 実加・青山 裕美・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、保育園での実務経験を踏まえ、より実践的な保育士の職務内容について理解が深まるようにし、記録や計画的保育に意欲的に取り組めるよう事前に実習の心構えに導く。

保育実習の概要を整理し、保育所実習の目的を理解するとともに、これまでの実習及び学内で履修した授業の成果をふまえ、保育現場での保育を体験的かつ実践的に学ぶことができるように、必要な準備について、講義や資料を通して自主的に行う。子どもの理解や保育の理解が深まるように、保育の記録や、指導計画を実践的に書く。また、保育に必要な教材を自主的に調べ工夫しながら準備する。

授業の到達目標
保育所保育について総合的に学び実践力を培う。乳幼児の発達特徴を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。保育者の専門性や役割についての理解を深める。保育所が担う子育て支援について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
今までの実習をふり返り、授業の成果を踏まえて、実習において保育をより実践的に体験できるように実習の自己課題を明確にしておく。子どもとのかかわりや保育現場とのかかわりを自主的に行い、保育への関心をより深めていくようにすること。

評価方法
提出課題(40%)授業の受講態度(30%)、実習準備への向き合い方と内容(30%)を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者としての感性を日頃から持てるように視野を広げ、様々な活動に進んで取り組んでみること。

01	保育実習の意義（実習の目的・実習の概要・留意事項）・保育実習関係書類作成等の事務手続き
02	保育所の機能と役割・事前訪問（実習園オリエンテーション）について・実習の自己課題
03	子どもの最善の利益を考慮した保育を具体的に学ぶ・個人情報・守秘義務について
04	保育者の専門性と役割・保育倫理について理解を深める
05	子どもを理解する①
06	子どもを理解する②
07	保育の記録を書く①
08	保育の記録を書く②
09	部分指導計画の作成①
10	部分指導計画の作成②
11	一日の指導計画の作成①
12	一日の指導計画の作成②
13	実習直前指導(心構えと準備の確認)
14	事後指導　自己課題の振り返りと整理
15	事後指導　自己評価と課題の整理
16	なし

科目名:保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:青山 裕美・小島 千恵子・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育所ならびに施設の概要を整理し、実習の目的を理解する。学内での授業の内容を踏まえ、保育現場において保育を体験的かつ実践的に学ぶ。
授業の到達目標 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教材内容を踏まえ、子どもの保育、保護者との関係について学ぶ。保育の計画、観察の記録 の仕方及び自己評価について具体的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 付属幼稚園実習やボランティア体験等の気づきや学びを整理して自分の実習課題を立てること。子どもの発達について整理し、わからないところを復習すること。教材や教材の活用の仕方について 考え、自分でできることを積極的に進めること。
評価方法 実習園の評価、実習に関連する課題、実習の振り返りと自己評価を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 元気に挨拶する。何事も積極的に取り組むようにすること。

01	1保育所の役割と機能について知る(一日の流れ、保育の展開) 2子どもを理解する(子どもの観察と記録の視点、発達過程、援助やかかわり) 3保育内容・保育環境(計画に基づく保育内容・発達過程に応じた保育内容遊びや保育環境・健康と安全) 4保育の計画・観察・記録(保育課程、指導計画の理解と活用・記録に基づく省察と自己評価) 5専門職としての保育士の役割と職業倫理（保育士の業務内容・職員間の役割分担と連携・保育士の役割と職業倫理)
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅱ	担当者:杉山 実加・青山 裕美・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習の意義や目的を理解し、子どもの最善の利益を考慮した保育・保護者支援など、保育の学びを具体的にする。保育実習Ⅰでの経験や既習の教科内容との関連性をふまえて実践する。観察や記録、自己評価をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。保育士の専門性や職業倫理について十分理解する。

授業の到達目標
保育を総合的に学び、実践できるようにする。子どもの状態に応じて適切にかかわることが出来るようにする。
保育の計画が具体的に立案でき、保育の表現技術を生かして実践できるようにする。保育の観察、記録、自己評価に基づく改善ができる。
事後指導において保育の自己課題が明確になる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・今までの実習を振り返り、保育実習Ⅱにおける自己課題を明確にする。
・実習中は、自己評価に基づく改善をしながら、より深みのある体験的学習ができるようにする。

評価方法
実習園の評価・実習に関連する課題・実習の振り返りと自己評価を総合して評価する。

教科書	参考図書
実習の手引き　(名古屋短期大学実習委員会作成版)	保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領　全国保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
これまでの実習、自主学習を生かして、自主的かつ積極的に実習に取り組めるようにすること。教材研究やピアノの練習など自主学修を怠らないこと。

01	実習の自己課題を実習先に提示し、目的を明確にして実習に取り組む。実習の事前準備や実習園とのオリエンテーションを基にしてより具体的に保育を学ぶ。子どもの保育、保護者支援について学び、その意味を理解する。子どもの状態に応じた適切な援助やかかわりができるようにする。準備した教材を保育に活かすための表現技術を工夫し実践する。保育の観察に基づく具体的な計画を立てて実践し、自己評価する。保育実践について自己評価したり助言されたことをいかして改善し、計画の再構成をする。 保育士の専門性や職業倫理について理解を深める。保
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実践演習	担当者:小川 雄二・近藤 茂之・高田 吉朗・高須 裕美・平野 朋枝・吉見 昌弘・小川 絢子・山下 直樹・太田 昌孝・小柳 雅子・上原 隆司・新沼 英明・吉田 真弓・杉山 実加・青山 裕美・小島 千恵子・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は、保育実践演習に主体的に取り組み、相互に研究交流、研究展開を行います。また、野菜の栽培や様々な集団活動は、保育者としての資質向上に欠かせないものですので、積極的に取り組むことが望まれます。

授業の到達目標
１　自己研究能力育成、２　発表・討論・表現能力の形成、３　相互協力・協働能力の形成が期待されます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的な参加をしてください。研修旅行や研修合宿も行います。

評価方法
提出された論文の内容的評価はもちろんのこと、論文完成に至るまでの各グループにおける個々の役割遂行や一連の活動への参加状況によって評価します。卒業論文のみならず、演習授業への積極的、自主的態度が望まれ、その体動についても評価します。また、定期的なゼミファイルの提出を求め、ファイルの状況、提出状況も評価に加えます。

教科書	参考図書
必要に応じて指示します	保育所保育指針、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
上記についての詳細は、初回のゼミガイダンスにて配布される資料に掲載されているので、各自よく目を通して不明な点がないようにしておくこと。それらの資料は毎回のゼミに必ず持参すること。また、個別ゼミだけがゼミの時間ではなく、「研究法入門」「就職懇談会」なども大切なゼミの一環です。どれも逃さずに参加してください。

01	保育実践演習ガイダンス
02	個別ゼミ１　1年間の運営方針や自己紹介など
03	個別ゼミ２　卒業研究テーマの再確認等
04	ゼミ交流会
05	個別ゼミ３　卒業研究グループ編成
06	研究法入門Ⅲ
07	個別ゼミ４　研究活動開始及び個別面談等
08	個別ゼミ５　各グループの運営委員決め
09	個別ゼミ６　各グループの研究活動
10	個別ゼミ７　各グループの研究活動
11	個別ゼミ８　各グループの研究活動
12	個別ゼミ９　各グループの研究活動
13	個別ゼミ１０　各グループの研究活動
14	個別ゼミ１１　各グループの研究活動
15	個別ゼミ１２　卒業論文中間発表会
16	個別ゼミ１３　各グループの研究活動
17	個別ゼミ１４　各グループの研究活動
18	個別ゼミ１５　各グループの研究活動
19	個別ゼミ１６　各グループの研究活動
20	個別ゼミ１７　各グループの研究活動
21	個別ゼミ１８　各グループの研究活動
22	個別ゼミ１９　各グループの研究活動
23	個別ゼミ２０　各グループの研究活動
24	個別ゼミ２１　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
25	個別ゼミ２２　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
26	個別ゼミ２３　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
27	個別ゼミ２４　各グループの研究活動および論文執筆　添削指導
28	就職懇談会
29	個別ゼミ２５　卒業論文のまとめ　提出
30	個別ゼミ２６　1年のまとめ
31	個別ゼミ２７　1年のまとめ

2020年度シラバス

科目名:保育・教職実践演習（幼稚園）	担当者:小川 雄二・近藤 茂之・高田 吉朗・高須 裕美・平野 朋枝・吉見 昌弘・小川 絢子・山下 直樹・太田 昌孝・小柳 雅子・上原 隆司・新沼 英明・吉田 真弓・杉山 実加・青山 裕美・小島 千恵子・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
少人数の研究グループによる共同研究を行います。学生は主体的に取り組み、相互に交流、研究を展開します。

授業の到達目標
保育・教育現場の実情と求められる保育実践者としての資質能力の向上を目指します。これまでの2年間で学んできた様々な知識や技能について、教員として必要な資質能力を整理・統合することによって、現在において新人保育者に求められている実践的力量を形成することを目標とします。①使命感や責任感、教育的愛情などの自覚、②社会性や対人関係力、③幼児理解や学級経営などの力量、④保育内容などの指導力、という4つの実践的力量の形成を意識していきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加姿勢（出席状況も含む）や発表内容、レポートなどを総合的に評価します。

教科書 適宜授業の中で紹介します。	参考図書 幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践演習と合わせて、演習を中心とした授業形式で進行していきますが、その中で発表、討論、講義、実技、観察、調査などの方法に積極的な態度で臨むことが将来の保育教育者としての資質を高めていくことになります。日々これらのことを強く意識しながら、将来の自分の姿をイメージしていくことが大切です。

01	教育実践検討会１　（教育実習反省会）
02	教育実践検討会２　（事例研究）
03	幼稚園訪問
04	教材報告会
05	教育実習のまとめと今後の課題
06	年齢別教育実践検討会（グループ討論）
07	保育・教育実践講演会「実践者の講演会」①
08	保育・教育実践講演会「実践者の講演会」②
09	保育・教育実践講演会を受けてのグループ討論
10	卒業生による就職懇談会
11	卒業生による就職懇談会を受けてのグループ討論
12	実践検討会
13	幼稚園訪問など
14	教育実践シンポジウム
15	教育実践シンポジウム
16	まとめ
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:英語	担当者:新谷 敦子・山之内 健太・村木 恭子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、ディプロマポリシーにある「国際的な視野で地域社会に貢献できる者」と関連している。グローバル化社会の中で、英語を使って子どもや保護者とコミュニケーションを取ったり、積極的に保育活動に英語を取り入れることが出来ることを目的とする。授業ではリスニング・スピーキングに重点を置き、様々な挨拶表現や子ども達に英語を教える際に必要な表現を学習し、さらにグループでスキット練習を行い使えるようにします。【AL】

授業の到達目標
これまでに学んできた英語の復習を行いながら、基本的な挨拶表現を理解し、使えるようになる。また、保育現場で使える英語の語彙を増やし、英語で基本的な指示を子どもに対してできるようになる。さらに、子どもと共に楽しめるような英語の歌や絵本に実際に触れ体験することで、子どもと英語を楽しむ事について考え、さらに各自で探索することができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業前には、次回の授業で学習する範囲について、必ず予習（筆記・音読）を行い、授業内容を把握するようにしてください。また、疑問な点や確認したい点を合わせて明確にしておいてください。授業後は、予習及び授業内容を振り返り、復習（筆記・音読）を行いましょう。合わせて授業ノートの振り返りを行い疑問な点が残っていないかもすぐに確認しましょう。また、教科書以外にも保育英語検定の参考図書や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。自己学修として必要な時間数については、毎週2時間程度です。

評価方法
授業への参加態度　50%　小テスト及び期末試験、プレゼンテーション等の課題　50%（詳細は、各担当者より初回の授業で説明します）

教科書	参考図書
宮田学編・高橋妙子著（2014)『保育の練習帳：単語＆フレーズを覚えよう』萌文書林	副教材及び参考図書については、授業内で各担当者より指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	クラス別オリエンテーション、幼保英検の紹介等
02	Lesson 1 & Lesson 2 （保育所に関連する語彙・表現）
03	Lesson1-2の復習, Lesson 3（挨拶表現、家族に関する語彙・表現）
04	Lesson 4（保育室に関する語彙・表現）, 幼保英検について（１）
05	Lesson 5（時間と数字), プレゼンテーションについて
06	Lesson 6（園児の持ち物に関する語彙・表現), プレゼンテーションについて
07	Lesson 3-6の復習, プレゼンテーション
08	Lesson 7 & Lesson 8（保育所周辺の道順に関する語彙・表現）
09	Lesson 9 & Lesson 10（子どもの遊びに関する語彙・表現）
10	Lesson 11（天気に関する語彙・表現）・英語の絵本の紹介
11	Lesson 7-11の復習, Lesson 12（感情・体調に関する語彙・表現）
12	Lesson 13（保育の日課）,幼保英検について（２）
13	Lesson 15 & Lesson 16（ランチに関する語彙・表現）
14	Lesson 17（トイレに関する語彙・表現), 夏休みに向けて（旅行や研修で使える英語表現）
15	まとめ
16	期末試験

科目名:保育の英語	担当者:新谷 敦子・山之内 健太・村木 恭子・森川 信子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、ディプロマポリシーにある「国際的な視野で地域社会に貢献できる者」と関連している。グローバル化社会の中で、英語を使って子どもや保護者とコミュニケーションを取ったり、積極的に保育活動に英語を取り入れることが出来ることを目的とする。授業ではリスニング・スピーキングに重点を置き、様々な挨拶表現や子ども達に英語を教える際に必要な表現を学習し、さらにグループでスキット練習を行い使えるようにします。【AL】

授業の到達目標
前期の「英語」に引き続き、これまでに学んできた英語の復習を行いながら、様々な挨拶表現を理解し、使えるようになる。また、保育現場で使える英語の語彙を増やし、英語で具体的な指示を子どもに対してできるようになる。さらに、子どもと共に楽しめるような英語の歌や絵本に実際に触れ体験することで、子どもと英語を楽しむ事について考え、さらに各自で探索することができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業前には、次回の授業で学習する範囲について、必ず予習（筆記・音読）を行い、授業内容を把握するようにしてください。また、疑問な点や確認したい点を合わせて明確にしておいてください。授業後は、予習及び授業内容を振り返り、復習（筆記・音読）を行いましょう。合わせて授業ノートの振り返りを行い疑問な点が残っていないかもすぐに確認しましょう。また、教科書以外にも保育英語検定の参考図書や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。自己学修として必要な時間数については、毎週2時間程度です。

評価方法
授業への参加態度　50%　小テスト及び期末試験、プレゼンテーション等の課題　50%（詳細は、各担当者より初回の授業で説明します）

教科書	参考図書
宮田学編・高橋妙子著（2014）『保育の練習帳：単語＆フレーズを覚えよう』萌文書林	副教材及び参考図書については、授業内で各担当者より指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	クラス別オリエンテーション、保育英語検定の紹介等
02	Lesson 18（連絡帳，子どもの様子に関する語彙・表現），幼保英検について（１）
03	Lesson 19（けんかに関する語彙・表現）
04	Lesson 20（体の部位に関する語彙・表現），英語の歌や絵本の紹介
05	Lesson 21 & Lesson 22（怪我と病気、救急処置に関する語彙・表現）
06	Lesson 18-22の復習，幼保英検について（２）
07	Lesson 23 & Lesson 24（電話応対に関する語彙・表現）
08	Lesson 25（遠足に関する語彙・表現），プレゼンテーションについて
09	Lesson 26（年間行事予定），プレゼンテーションについて
10	Lesson 23-26の復習，プレゼンテーション
11	Lesson 14　（乳児に関する語彙・表現），クリスマスの歌
12	Lesson 27 & Lesson 28（乳児に関する語彙・表現），クリスマスの歌
13	Lesson 29（卒園に関する語彙・表現）
14	Lesson 30（祝日と記念日に関する語彙・表現）
15	まとめ
16	期末試験

科目名:フランス語Ⅰ	担当者:小倉 康寛	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　フランス語ははじめでしょうか？　新しい外国語を学ぶということは、子供になったような気持ちで、一から自分の言葉のありかたを見直していくということです。根気も入りますが、楽しいことです。この授業では、フランス語だけではなく、フランス文化を学ぶことで、自己紹介、買い物などができるようになることを目指します。1年を通じて、フランスに旅行に行っても困らないだけの力を身につけます。

授業の到達目標
・つづり字の規則が分かり、単語が読めるようになること。
・自己紹介、買い物など、会話ができるようになること。
・動詞の現在形の活用を覚え、使えるようになること。
・フランスの文化や習慣を理解し、適切な振る舞いを理解すること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　まずはフランス語を好きになることです。フランスに関連するものに積極的に触れてみてください。日本でもカフェのメニューにはフランス語のものがあります。気になったら、メモを取って、さっそく調べてみてください。フランス語が出てくる映画を観たり、シャンソンを聞いたりしてもいいでしょう。クラシック音楽もいいですね。まずは「ちょっと気になった」という気持ちを大切にすることから始めてみてください。結果をあせる必要はありません。楽しんで学ぶことを覚えてください。勉強の努力は後からついてきます。

評価方法
定期試験25％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度50％（会話練習など）

教科書	参考図書
トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社	授業内で紹介します。辞書も紹介するので、買わずに臨んでください。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業では個別にあてて、練習をどんどんやります。恥をかくことをおそれずに、積極的に参加してください。みんなで楽しい授業になるようにしていきましょう。

01	オリエンテーション
02	アルファベ、フランス語の発音
03	つづり字の読み方、あいさつ
04	フランスの文化と社会①（フランスの学生生活）
05	テオとユリが自己紹介します（1）
06	フランスの文化と社会②（フランス雑学）
07	テオとユリが自己紹介します（2）
08	フランスの文化と社会③（カフェ）
09	ユリがテオの店を訪れます
10	フランスの文化と社会④（フランス人の生活観）
11	兄弟・姉妹について話します
12	フランスの文化と社会⑤（ショッピング）
13	テオがユリの妹について尋ねます
14	フランスの文化と社会⑥（レストラン）
15	総復習と確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:フランス語Ⅱ	担当者:小倉 康寛	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　フランス語には慣れてきましたか？　自己紹介したり、買い物したりすることはできるようになりましたか？　もしできていなかったら、復習しますから安心してくださいね。今度は、友達を誘ってどこかに行くためのフランス語や、各地を訪れた際に必要な表現を学んでいきます。授業の目標は前期とほとんど同じですが、レベルアップしていくように、向上心を持って取り組みましょう。

授業の到達目標
・つづり字の規則が分かり、知らない単語でも読めるようになること。
・友達を誘ったり、旅行に行く際の表現を覚え、発音できるようになること。
・新しい動詞の活用を覚えていること。
・フランスの文化や習慣を理解し、社会人としてふさわしいマナーで振る舞えるようになること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　フランスに関連するものの中で、自分が好きになれるものはもう、見つけましたか？　料理、お菓子、シャンソン、映画、美術などなど、たくさんありますね。そうしたものに日頃から触れて、フランス語に対する関心を楽しい気持ちで維持しておきましょう。後期までおわれば、もうフランスに旅行に行くことができるでしょう。いざ自分が行くと思ってみると、「この表現はむずかしいけれど覚えておくと便利だな」など、やる気が違ってくるはずです。やる気を自分で上げる方法を探してください。

評価方法
定期試験25％（筆記）、確認テスト25％（筆記）、授業への参加態度50％（会話練習など）

教科書	参考図書
トライ！フランス語　-F comme Français- 藤田知子他著、駿河台出版社	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　恥をかくことをおそれずに、授業にどんどん参加してください。

01	前期の復習①
02	前期の復習②
03	テオはユリを食事に誘います
04	フランスの文化と社会①（フランス人の祝日と週末）
05	二人が週末の予定を話します
06	フランスの文化と社会②（パリ近郊への一日の旅）
07	モン・サン・ミシェルを訪れます
08	フランスの文化と社会③（フランスの世界遺産）
09	モン・サン・ミシェルで満ち潮を待ちます
10	フランスの文化と社会④（フランスの地方都市）
11	テオがユリを両親に紹介します
12	テキストの総復習
13	フランスの文化に触れる①
14	フランスの文化に触れる②
15	まとめと確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:ポルトガル語Ⅰ	担当者:富松 エミ	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音・挨拶表現・文法等・基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について・又、日本の幼稚園・保育園・学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽・映画・ブラジルの遊び・幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介をします)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば。ブラジル料理の店などを紹介したい。

評価方法
（出席・授業の参加度・意欲・関心）２０％・提出物２０％・小テスト３０％・プレゼンテーション３０％

教科書	参考図書
ブラジルを発見ーブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学者（必修）学生の携帯のアプリケー	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、頑張って楽しい授業をするのでいっしょに頑張りましょう。毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	ポルトガル語のこととブラジルのこと
02	ポルトガル語の文字と発音１
03	ポルトガル語の文字と発音練習問題
04	挨拶と簡単な日常会話１
05	挨拶と簡単な日常会話２
06	名詞の性と数
07	否定文疑問文
08	ブラジルと日本の違い　・グループ分け
09	4～7の練習問題・グループ発表課題決め
10	ser 動詞1・グループ発表課題について調査
11	ser 動詞2・グループ発表課題について調査
12	形容詞・グループ発表の準備
13	グループ発表とレポート
14	ブラジルの食文化とブラジルの料理作り
15	会話テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:ポルトガル語Ⅱ	担当者:富松 エミ	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音・挨拶表現・文法等・基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について・又、日本の幼稚園・保育園・学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽・映画・ブラジルの遊び・幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介をします)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば。ブラジル料理の店などを紹介したい。

評価方法
(出席・.授業参加度・意欲・関心)20%・提出物20%・発表30%・期末試験(会話テスト) 30%

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	前期のおさらい
02	所有詞と練習問題
03	命令形と指示詞
04	ＥＳＴＡＲ動詞
05	17～18の練習問題と会話の練習
06	グループで会話作り
07	ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習
08	会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い
09	場所の副詞と時間の言い方
10	20～22の練習問題と会話の練習
11	ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
12	PODER動詞・・ブラジルについてのグループ調べ
13	ブラジルについてのグループ発表
14	ブラジルのお菓子作り
15	会話のテスト
16	

2020年度シラバス

科目名:中国語Ⅰ	担当者:高　文軍	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目標としている。また、視聴覚資料を使って、中国語と文化に対する理解を深めることも目指す。この授業は後期に開講する中国語Ⅱを選択するための必修講義でもある。この授業は名短保育科が掲げるディプロマポリシーの一部である「国際的な視野で地域社会に貢献する」という内容に合致している。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語での挨拶や自己紹介ができるようになり、辞書を使えば、簡単な日常会話も話せるし、優しい文章も読解できるようになることを目標にしている。
言語の他に、授業を通して中国文化の基本知識を少しずつ習得できることも視野に入る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも1時間程度にしてほしい。

評価方法
平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。
口頭テスト　10%。　　総合テスト　50%。

教科書	参考図書
『大学生のための初級中国語24回』白帝社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　何事でも、努力すれば収穫がある。
連絡方法は別途で知らせる。

01	はじめに ようこそ　中国語の基本　　声調
02	中国語の単母音、複母音
03	中国語の子音
04	中国語の鼻母音　人称代詞
05	声調の変化　挨拶
06	私は大学生です
07	私はパンを買います
08	体験学習　中国の民族衣装
09	あなたは？
10	彼はだれですか
11	日本語は難しいですか
12	携帯を持ってますか
13	おなかがすいた
14	総復習
15	確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:中国語Ⅱ	担当者:高　文軍	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:　前期に開講した「中国語Ⅰ」を履修した学生が対象である。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目標としている。また、視聴覚資料を使って、中国語と文化に対する理解を深めることも目指す。この授業は前期に開講する中国語Ⅰを選択するための必修講義でもある。この授業は名短保育科が掲げるディプロマポリシーの一部である「国際的な視野で地域社会に貢献する」という内容に合致している。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語で簡単な日常会話を話せること、また、簡単な文章を読めるようになることを目標にしている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも１時間程度してほしい。

評価方法
　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。
　口頭テスト　10%。　　総合テスト　50%。

教科書	参考図書
『大学生のための初級中国語24回』白帝社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　何事でも、努力すれば収穫がある。
　連絡方法は別途で知らせる。

01	前期要点チェック、復習
02	土曜日は何をしに
03	学校には食堂何個ある
04	昨日どこに行った
05	台湾に行ったことがある
06	二週間
07	体験学習　中国のお茶（料理）
08	テニスできる
09	いとこは今年いくつ
10	昨夜何時に食事をしたの
11	彼女は走るのが遅い
12	先生は教室に入って来た
13	私たちは用意できた
14	復習
15	総テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:山下 玲香	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 バドミントンの実技を中心に、シングルス、ダブルスのゲームを行う。技術として「ハイクリア」、「ドライブ」、「ヘアピン」を習得する。15回目にまとめのテスト（１回）を行う。
授業の到達目標 社会人になっても参加して楽しめるように、バドミントンの技能を習得する。 自分たちで試合を運営できるようになる。 運動を楽しむ習慣を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業において多くのゲームに参加できるように、基礎的な身体能力を維持・向上させる。
評価方法 授業への参加態度および上達度70%、筆記試験30%

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 運動にふさわしい服装と上靴を準備する（ピアス不可）。連絡先は授業で開示する

01	ラケットとシャトルに慣れる
02	ハイクリアを学ぶ
03	ハイクリアゲームを考える
04	ハイクリアゲームを教えあう
05	ドライブを学ぶ
06	ドライブを教えあう／ヘアピンを学ぶ
07	シングルスのミニゲーム（縦半面）を実践する
08	シングルスミニゲームを実践する
09	ダブルスを実践する／サイドバイサイド
10	ダブルスを実践する／トップアンドバック
11	ダブルスの簡易ゲームを実践する（7点先取）
12	ダブルスの簡易ゲームを実践する（10点先取）
13	ダブルスの試合①
14	ダブルスの試合②
15	まとめのテスト（教室）
16	なし

2020年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:富野 順子	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
生涯スポーツのための選択肢のひとつにできるように、卓球の基本的知識と技術を学ぶ。うまくなるためのポイントを明確にして、受講生相互で協力して練習する。

授業の到達目標
①安定した連続打球ができるようになる。
②ルールを理解し自分たちで審判をして、協力してゲームを進めることができるようになる。
③うまくなるためのポイントを説明できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎日の食事、睡眠など生活習慣に気をつけ、体調を整えて過ごせるように心がける。インターネット、書籍などで卓球の技術やルール、歴史などを調べる。TV、新聞、インターネット、書籍など、卓球その他スポーツに関する話題に関心を持つ。五輪・パラリンピックの報道のされ方にも関心を寄せる。

評価方法
実技課題到達度70%、ルール等確認ミニテスト20%、ミニレポート10%　　実技形態のため授業への参加態度（欠席等を含む実技不参加の態度）は、総合点より減点する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の身体、生体リズムとの折り合いのつけ方をみつけることを心がけてください。 運動にふさわしい服装、靴、身だしなみで参加してください。TV、新聞、インターネット、実際の試合等をみて、卓球はどのように取り上げられているか、他のスポーツはどのように扱われているかなどに関心を持って欲しいと思います。

01	オリエンテーション／ラケットとボールに慣れる
02	基本技術（バックハンド・フォアハンド）
03	試しのラリー（バックハンド・フォアハンド）
04	基本技術（強打）／制限付き簡易練習ゲーム
05	基本技術（サービス）／シングルスゲーム練習（基本的ルールの理解）
06	シングルスリーグ戦（個人戦） 1
07	課題チャレンジ（連続ラリー　等）／シングルスリーグ戦（個人戦） 2
08	ダブルスゲーム練習（基本的ルールの理解と動き方の工夫）
09	ダブルスリーグ　第１戦（個人戦）
10	ダブルスリーグ　第２戦（個人戦）
11	ダブルスリーグ　第３戦（個人戦）
12	競技種目を知る　団体戦１
13	団体戦２
14	確認ミニテスト／課題チャレンジ（連続ラリー　等）
15	まとめ
16	

2020年度シラバス

科目名:スポーツ	担当者:安藤 晴彦	開講学科等	保育科
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
生涯を通じてテニスを楽しむための基礎技術、ルールを習得し、ゲームができるようになることを目指した授業を展開する。安全やマナー、クラス全員で配慮して楽しく運動する。

授業の到達目標
・硬式テニスのルールを習得し、試合のプレイや運営（審判等）を行うことができるようになる。
・硬式テニスの基礎技術（フォアハンド、バックハンド、ボレー、サーブ）を習得する。
・サーブが５０％の確率で入る事、続けてラリーが１５往復出来る技術を身に付けよう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
常日頃から体調の管理や体力の向上を心がけよう。また、テレビ・ネット等でテニスの試合を観ることにより、ルールを覚え、技術のイメージトレーニングをし、また戦術を知ったりしよう。

評価方法
参加状況、技術、姿勢を総合的に判断する。

教科書	参考図書
必要に応じて資料を配布する。	必要に応じて指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
スポーツをするに相応しい服装等で参加する事。主にコミュニケーションを通じた実技方式によって授業を展開する。雨天時等のテニスコートが使用不可の時は、状況に応じて使える施設で運動したり、視聴覚教材・配付資料を用いて授業を行う。

01	オリエンテーション：授業進行・注意事項の説明　　身体慣らし
02	基本：身体慣らし、道具・ボール慣れ
03	基本技術：フォアハンド、バックハンド
04	基本技術：サーブ、（フォアハンド、バックハンド）
05	基本技術の確認：サーブからのラリー（連続ラリー５往復）
06	基本技術：ネットプレイ、（サーブ、フォアハンド、バックハンド）
07	応用：ダブルスのルール、ミニゲーム
08	応用：ダブルス・ゲーム
09	応用：ダブルス・ゲーム　　課題：サーブ（In率50%）
10	応用：ダブルス・ゲーム
11	応用：ダブルス・ゲーム　　課題：ペアで連続ラリー（15往復）
12	応用：ダブルス・ゲーム
13	応用：ダブルス・ゲーム
14	応用：ダブルス・ゲーム
15	まとめ
16	

2020年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:寺田 恭子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、生涯に渡って心身共に健康な生活を送れるよう、必要な知識と行動習慣を身に付ける。さらに社会のあらゆる角度から、より良く生きるために再考すべき課題を健康とスポーツというキーワードから発見・探求していく。

授業の到達目標
現代社会をより健康に生きるためには、健康に関する知識や運動・スポーツへの実践力を身に付けることはもちろんであるが、社会全体に対する意識を高め社会の在り方を考察し、課題を発見・解決する力も必要である。本授業では、個々および社会における課題を健康とスポーツというキーワードを通して発見する。また人々がより人間らしく豊かに生きるために必要な生活行動習慣および考え方について探ることができ、学生自身がその具体的方法を身に付けることを目的とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃からスポーツや健康に関する情報について関心をもち、新聞やニュースをよく読んだり聞いたりすること。

評価方法
受講態度・提出課題(毎回&特別レポート)評価:40%筆記試験結果:60%以上を総合して評価する。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布する。	各教員がその都度連絡する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義内では、みなさんの意見･体験などを発表することや、簡単な実技等を行う場合もある。積極的に参加すること。

01	オリエンテーション　健康とスポーツを学ぶにあたって
02	生活習慣(喫煙・飲酒)と健康
03	フィットネスと健康　疲労とストレス
04	ダイエットと肥満　より健康なカラダ作りを目指して
05	体力について
06	運動不足が身体に与える影響
07	女性の身体と健康①
08	女性の身体と健康②
09	女性の健康と病気・妊娠・出産・中絶
10	更年期障がいと骨粗しょう症
11	スポーツと身体
12	オリンピック・パラリンピックからスポーツという文化を考える
13	スポーツに関わる社会的な問題と課題
14	子どもとスポーツ
15	私のライフプラン～生涯に渡るスポーツを取り入れた健康的生活の在り方～
16	まとめ・確認試験

2020年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:木村 達志	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
健康や運動に関して講義形式で進めていきます。生涯に渡って健康を維持するためには、運動と栄養と休養が大切です。その中でも特に運動を中心として、疾病予防やストレスの軽減、性差やライフステージとの関連について学習します。

授業の到達目標
生涯に渡って充実した生活を送ることが出来るようにするため、巷にあふれている健康に関する情報の取捨選択する能力を身につける。その中でも、特に運動の効果について理解するとともに、自分のからだや健康管理について生理学的な知識を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としてシラバスの内容に関係する健康や運動の情報について予習しておくと良いです。事後学修として、Moodle上にある授業資料について授業中に触れることが出来なかった箇所に目を通して下さい。

評価方法
授業への取り組み：40%、提出物（ミニレポート）：20%、期末試験40%

教科書	参考図書
特になし　教員が作成した資料を使用する。	必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、扱いに慣れておくと良いでしょう。

01	授業概要およびMoodleの利用方法について
02	生活習慣(喫煙・飲酒)と健康、アルコールパッチテスト
03	体力・運動の種類、トレーニングについて
04	疲労・ストレスの概要
05	疲労・ストレスの回復方法
06	運動不足による健康への影響
07	肥満の成り立ち
08	肥満の改善
09	メタボリックシンドロームとは
10	生活習慣病、フレールと運動
11	女性とスポーツ（月経・妊娠・出産）
12	女性とスポーツ(更年期・骨粗鬆症)
13	性・性感染症
14	環境と運動・スポーツ(暑熱環境・日焼け)
15	運動・スポーツを実践するための環境整備
16	まとめ・試験

2020年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅰ	担当者:上原 隆司・木村 登次・木下 博光	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 WindowsとMicrosoft Office(Word・Excel・PowerPoint)の基本操作をマスターする。また、電子メールソフトを使った通信や、ブラウザソフトを使った情報検索などの方法をマスターする。
授業の到達目標 保育の現場や、それを取り巻く環境においても、コンピュータを利用した情報処理技術の活用は必須の能力といえる。園だよりや紙芝居などの作成を通じてOffice製品の基礎を習得し、将来保育の場面で必要なときに応用出来るようにする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 情報検索やレポートの作成などを通じて日常的にパソコンを使って慣れることが、使い方をマスターするための近道である。授業で学んだ技術は様々な科目の学習活動等において積極的に活用すること。
評価方法 授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領・保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 将来保育者となったときの活用法を意識して学ぶことが大切である。パソコンを使って慣れることが技術習得の近道であるので、苦手だと思う人はパソコンに触れる時間を増やして遊びながら使い方に慣れること。

01	学内e-mailアカウントの設定とメールマナー
02	ファイルの操作と文字入力
03	Wordを使った文書作成と文字修飾
04	Word文書での図形と画像の利用
05	Word文書での表の利用
06	Wordを使った園だより作成１ー段組み、行間の設定、文書のレイアウト
07	Wordを使った園だより作成２ー画像のトリミング、背景の削除、文字列の折返し
08	Wordを使った園だより作成３ーテキストボックスの利用
09	Excelでのデータの入力とセルの書式設定
10	Excelでの名簿の作成、ソートとフィルタリング
11	Excelでの数式とセルの参照
12	PowerPointとプレゼンテーション
13	PowerPointプレゼンテーション演習１ーオブジェクトの整列と重ね順
14	PowerPointプレゼンテーション演習２ーアニメーションの設定
15	PowerPointプレゼンテーション演習３ースライドショーを使ったプレゼンテーション
16	

2020年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:鏡 裕行	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、パソコン演習Ⅰで学んだことを土台とし、現在、また今後、保育の場面で有用となるであろうと思われる情報処理の技術をピックアップし、演習を通じて、それらを保育者となってから使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。特に、デジタル画像・ビデオ編集技術やWebデザイン技術を用いて、効果的に情報を発信、伝達していくための基礎を、実践を通じて学ぶことを重視する。

授業の到達目標
情報処理の技術を学ぶのみならず、身につけた技術を用いて、表現・発信したい内容を自ら企画し、作成し、完成させるという営みを通じ、情報処理の技術を使いこなしていくための基礎を習得することを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
情報処理の目的の一つに、情報検索がある。現在では、この情報検索機能を活用すれば、不明な事項の多くが解決できるようになるといってもよい。パソコンの使用方法等で不明な点があった場合は、是非、この情報検索機能を用いて自ら調べ、解決することを行ってほしい。

評価方法
各課題・制作物：80%、授業への参加態度：20%。

教科書	参考図書
なし。オリジナルの教材を適宜配布。	必要に応じ、授業で指示。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
情報処理技術の習得には、自らによる実践が不可欠である。効果的な情報処理・発信のためには、企画の段階で明確な構想を描くことが重要である。企画と技術の両輪がかみ合うことで、優れた情報処理・発信が可能となる。

01	ガイダンス
02	Word・Excelの応用1：クラスだよりの作成
03	Word・Excelの応用2：オリジナルカレンダー作り１
04	Word・Excelの応用3：オリジナルカレンダー作り２
05	Word・Excelの応用4：オリジナルカレンダー作り３
06	Word・Excelの応用5：オリジナルカレンダー作り４
07	デジタル画像・ビデオ編集1 - 企画
08	デジタル画像・ビデオ編集2 - 撮影1
09	デジタル画像・ビデオ編集3 - 撮影2
10	デジタル画像・ビデオ編集4 - 編集1
11	デジタル画像・ビデオ編集5 - 編集2
12	デジタル画像・ビデオ編集6 - 編集3
13	作成したビデオ作品の鑑賞会
14	Webデザイン1 - HTML文書の基本構造、作成の基本手順
15	Webデザイン2 - 画像（静止画、動画）の扱いとレイアウト、まとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:上原 隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 園だよりやお知らせ文書などの作成をはじめとして、パソコンを使用した業務は保育に関わる仕事においてその重要性を増してきている。この授業では情報処理演習Iで修得した内容の保育現場での活用方法について演習を通して学ぶ。また、これから修了レポートや卒業論文を執筆するために必要なWordの機能やその成果の発表の方法についても学ぶ。
授業の到達目標 「パソコンの使い方を理解する」だけではなく、「パソコンを自分の目的に合わせて活用することができる」ようになることを目標とする。授業でやったことだけではなく、それを応用して、自分がこれからやる作業をパソコンを使ってどのように効率化できるかを考え、調べ、実行できるようになることを目指す。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 将来保育者となったときに使えるようにするため、授業で学んだことはしっかりと復習し、確実に身につけること。パソコンの使い方で分からないことがある場合、調べて出てこないことはほぼない。普段からパソコンを使うときには、分からないことがあっても自分で調べ、解決できるようになっておくこと。そうすることでパソコンが活用できるかどうかは大きく変わる。
評価方法 授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書 保育所保育指針
その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問等があれば担当教員の研究室に質問に来ること。	

01	Wordを使った論文・レポート作成の基本1
02	Wordを使った論文・レポート作成の基本2
03	スキャナーを利用したチケット作成
04	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り１
05	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り２
06	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り３
07	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り４
08	Excelを使ったオリジナルカレンダー作り５
09	名簿データと差し込み印刷を利用した年賀状作成
10	お正月の福笑い作り
11	PowerPointを使った電子紙芝居作成１
12	PowerPointを使った電子紙芝居作成２
13	PowerPointを使った電子紙芝居作成３
14	PowerPointを使った電子紙芝居作成４
15	PowerPointを使った電子紙芝居作成５
16	なし

2020年度シラバス

科目名:情報処理演習Ⅱ	担当者:南 裕一郎	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本演習では、「情報処理演習Ⅰ」で学んだWindowsやオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作をさらに発展・応用させたスキルの習得を目指します。大学では日々のレポート課題、発表レジュメやスライド、就職活動時のメールのやり取りなど、パソコンを使う機会が多いはずです。それに卒業後は、どのような仕事であれPCを使用することになります。複雑な作業はスマホよりもPCのほうが圧倒的に有利です。本演習でPC操作方法を学ぶことにより、より高い情報読解力・情報発信力も身につくはずです。

授業の到達目標
Windows、メール送受信、オフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作に加え、本演習では、さらに高度なテクニック（例：Wordの書式設定、Excelの関数、PowerPointのアニメーション）について重点的に学びます。最後の回ではPowerPointを用いてプレゼンテーションをしてもらいます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日ごろからパソコン操作に慣れ親しんでおくこと。とくにタイピングについては、できるだけ速くこなせるように練習しておくこと。

評価方法
授業内で課す課題の提出：70%、毎回の受講態度：30%。
以上の各項目について総合的に評価します。

教科書	参考図書
市販教科書は使用しません。毎回、オリジナルの教科書を配布します。	必要に応じ、授業内で指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での担当者への連絡・質問等は、基本的にはメールでおこなってください。

01	オリエンテーション：本演習の目的と意義
02	Eメール（Gmail）のつかいかた
03	Eメールでの文章の作法、添付ファイルを挿入する
04	パソコンとはなにか、Windowsとはなにか、役に立つWindows操作
05	Word応用編①　長めの文章を時間内に入力する
06	Word応用編②　ワードアートを作成する、ページ番号を挿入する
07	Word応用編③　図形や画像を挿入する、フォントの種類や大きさを変更する
08	Word応用編④　縦書きと横書き、作成した文書を印刷する（両面印刷や2アップ印刷など）
09	Excel応用編①　簡単な表をつくる、やや複雑な表をつくる
10	Excel応用編②　セル同士の計算をする、関数基本編（SUM、AVERAGE、COUNTなど）
11	Excel応用編③　関数中級編（IF、VLOOKUPなど）、グラフの作成（棒グラフ、折れ線グラフ）
12	Excel応用編④　グラフの作成（円グラフ、散布図、複合グラフ）
13	PowerPoint応用編①　どういうスライド構成にするか、画像・テキストの挿入
14	PowerPoint応用編②　画面切り替え効果、アニメーション、ノート機能
15	PowerPointを用いたプレゼンテーション（全員）
16	なし

2020年度シラバス

科目名:日本国憲法	担当者:綾部 六郎	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　日本国憲法については、これまでにも中学校・高等学校の「公民科」の授業などで学んできたはずなので、ここではその復習をしながら、わたしたちが学んでいるのが女子大学であることに対応した、もう少し詳しい内容を学習します。
授業の到達目標 　抽象的な憲法の条文に込められている歴史的な理念と、日常的な出来事のなかに潜んでいる憲法上の問題とを正しく結び付けられることが、憲法を学ぶうえでは大切です。 　また、教員採用試験などでの出題にも対応できるように準備していきます。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 　憲法に限らず法学の学習にとってまず大切なのは、そこで使われる用語の意味や用法を正しく理解することと、法的思惟の背景にある歴史的叡知の存在を把握しようと努めることだと考えています。詳しくは授業の際にお話しします。
評価方法 1. 確認テストの成績（90%） 2. 受講態度などの勘案（10%） 3. 任意課題の提出（適宜加点する）

教科書	参考図書
開講までに指示します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 座席指定制になります。

01	導入テストの実施など
02	憲法総論（憲法史・立憲主義・国民主権・憲法改正など）
03	自己決定権／学問の自由【以下人権論】
04	思想・良心の自由／信教の自由
05	教育を受ける権利／プライヴァシー権
06	表現の自由／集会の自由
07	人権享有主体／法の下の平等
08	両性の平等／職業活動・移転の自由
09	財産権／生存権
10	労働基本権／参政権・選挙制度
11	立法・国会／内閣【以下統治機構論】
12	裁判所・裁判員制度
13	司法権の独立と限界
14	地方自治／条例・住民投票
15	授業のまとめなど
16	なし

2020年度シラバス

科目名:異文化研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「異文化研究って何?」「なんだか難しそうな科目名だと思う」例年、1年生から受講前に聞く言葉です。実際は、難しい科目ではありません。保育者としてという以前に一人の人間として視野の広い考え方ができる教育者になってもらいたいと担当者は考えています。世界には様々な異なった視点の価値観や倫理観があります。保育の現場では海外の国から来た子どももいます。大学生として物事への多角的かつ複眼的視野を持つための一つのきっかけとなる教養教育として授業を展開していきます。自らの知識、考え方の幅を広げたい人、海外プログラム参加者予定、就職試験対策等一般教養を強化したい人、等に適した授業です。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれから向かう社会人としてどう生きていくか、一人の人間としてそのように人生計画を組み立てて進んでいくか、なども考えます。そうした事を考えることは次の進路である就職活動や試験の場においても役立つように広い項目を扱います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す　②ニュースを見る、新聞を読むように心がける

評価方法
　授業への参加姿勢30%　授業内レポート30%　期末考査40%

教科書	参考図書
『ニューヨークの魔法のかかり方』岡田光世著　2017年　文春文庫	図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に社会を見つめる意識を持ちましょう

01	異文化研究とは何を学ぶのか
02	1）ステレオタイプ　　2）タブー
03	祭りと伝統儀式 / 祭り / 伝統～文化の継続性　祭りの意味　名桜祭紹介儀式 / 祭り / 伝統～文化の継続性　祭りの意味　名桜祭紹介
04	異文化の衝突とは
05	動物と異文化　～　介助犬
06	仏教に見る出家の社会的・文化的価値観とその背景
07	映像文化 ～ その変化と発展
08	ヒンズー教の考え方とそこに根付く文化
09	異文化を超えて～危機管理
10	異文化による死生観の違い
11	日本文化の特徴
12	契約の概念とイスラム教
13	異文化との交流を考える
14	歴史と(異)文化の関係　　歴史とは何か　なぜ保育者になるのか
15	まとめ
16	定期試験

2020年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:吉見 昌弘	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では高度で実践的な保育と子育ての専門家を目指して保育者として保育の意義を学び、普遍的な子どもの原理・原則と今日の子どもを取り巻く環境に適した柔軟な保育のあり方について学んでいきます。授業の方法は、教科書を中心に基礎的な事項を読んで解説することと、ビデオや実例などをもとに保育の現状を伝えて行きます。授業毎に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をしてもらいます。また回収した課題（用紙）は翌週に押印もしくはコメントの上、返却します。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用します。

授業の到達目標
１　保育の意義について理解し、現代の保育の課題と目指すものを述べることができる。
２　幼稚園・保育所、認定こども園に関する諸制度を理解し、意見を述べることができる。
３　保育の歴史上の人物の実践と思想、保育の専門性について理解し、将来の保育者像を描くことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
はじめて学ぶ人のための保育原理（斎藤裕・吉見昌弘編　北大路書房）	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	保育の意義と現代的課題
03	幼稚園における諸制度
04	幼稚園教育要領
05	保育所における諸制度
06	保育所保育指針
07	幼稚園と保育所の比較
08	幼保一元化の流れ
09	認定こども園
10	保育内容（５領域とねらい、内容）
11	保育形態　－自由保育、一斉保育
12	保育形態　－設定保育、統合保育
13	子どもと自然の関わり
14	保育の歴史と思想　保育者の専門性
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:教育原理	担当者:小栁 雅子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 皆さんは、これまで自分たちが受けてきた「教育」が自分自身にとってどのような意味を持っているのか考えたことはありますか。今後、皆さんは「教育を受ける側」ではなく「教育をする側」として現場に立つことになります。保育者として行う教育の「意味」や「目的」、保育現場における自分たちの役割などについて、この授業で学んでいきましょう。
授業の到達目標 ①教育に関わる基本的な概念・理念について理解する。 ②教育の歴史的変遷や思想を知る。 ③我が国における現代の教育システムを理解する。 ④現代の教育が抱える課題とそれに対する教育者（保育者）の役割を考えることができる。 以上の４点を本授業の到達目標とします。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 毎回の授業に関わる準備学修は必要ありません。ただし事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育・保育に関わる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしてください。また、それらについて、自分自身の意見を持つことができるようにしてください。
評価方法 ①第１回～第14回の授業で実施する授業内課題（10点×14回＝140点）と②第15回の授業で実施する確認試験（100点）の合計点を総合評価します。このうち60％（144点）本科目の単位取得に要する最低点とします。

教科書	参考図書
テキストを配布しますので毎回の授業に持参してください。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事項について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡などの必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋自分たちが受けてきた教育の振り返ろう
02	教育とは何か①－人間にとっての教育の必要性
03	教育とは何か②－「教えること」と「学ぶこと」の関係性
04	教育とは何か③－家庭教育と学校教育
05	教育とは何か④－現代における教育の意味と教育者（保育者）の役割
06	教育の重要な要素①－子ども観の変遷と教育を受ける権利の重要性
07	教育の重要な要素②－教育の「目的」「内容」「方法」の関係性
08	教育の重要な要素③－教育者（保育者）の専門性
09	教育および教育思想の歴史的変遷①－欧米
10	教育および教育思想の歴史的変遷②－日本
11	我が国の教育システムと制度①－就学前教育から高等教育までの仕組み
12	我が国の教育システムと制度②－公教育を支える制度と行政機関
13	教育を取り巻く現代的課題①－子どもの貧困と教育
14	教育を取り巻く現代的課題②－多様化が進む社会において今後必要とされる力
15	確認試験＋最終講義－これからを生きる教育者（保育者）として
16	なし

科目名:子ども家庭福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、児童や家庭への支援の実際を紹介しつつ、児童家庭福祉の複雑な制度を実践に即して理解を図ることができる。また、少子化が社会に与える影響と保育者の地域における役割を教授することが可能である。

子どもを取り巻く環境は時代とともに変化し、当然のことながら支援のあり方も変化します。昨今では児童虐待問題や子どもの貧困問題などが顕在化していますが、保育現場で相談援助が必要になった場合に必要な知識を、法律面、制度面を中心に講義します。

授業の到達目標
１．現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
３．児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．児童家庭福祉の現状と課題について理解する。５．児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料やテキストの該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
ノートの点検、小レポート、受講態度20%、確認テスト80%

教科書	参考図書
「保育実践と児童家庭福祉論」（勁草書房）	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、穴埋め式のレジュメを配布します。A4版のフラットファイルなどを用意し、資料の整理に努めてください。

01	オリエンテーション、児童家庭福祉を学ぶ意義と目的
02	現代社会と児童家庭福祉
03	児童家庭福祉の歴史的展開
04	児童の人権擁護と児童家庭福祉
05	児童家庭福祉の法律と行財政
06	児童家庭福祉の実施機関・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と児童の健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス
11	社会的擁護
12	障害のある児童への対応
13	非行への対応
14	子ども・子育て支援と児童家庭福祉の推進
15	保育と児童家庭福祉、確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】ソーシャルワーカー（社会福祉士）
行政機関でのソーシャルワーカー（社会福祉士）としての経験から、実例をとおして社会福祉の制度の理解を図ることができる。また、子どもの育ちを支える地域社会の役割について、行政の立場から多角的に検討することで、社会福祉の実際をより実践的に理解することができる。

本講義は社会福祉の専門職としての保育士が習得すべき社会福祉に関する法的、制度的知識を教授することを目的とする。社会福祉の制度は非常に複雑でその範囲も広い。本講義では制度等のしくみ（成り立ち）にも言及しながら理解を深める。

授業の到達目標
１．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
２．社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
３．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
４．社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
５．社会福祉の動向と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料の該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
課題の提出状況、受講状況（20%）、確認テスト（80%）を基準に総合的に評価します。

教科書	参考図書
福祉の基本体系シリーズ10社会福祉の形成と展開（勁草書房）	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回レジュメを配布します。このレジュメは就職試験等の参考資料としても活用できるように構成していますので、専用ファイル（A4版）を用意し、資料の整理に努めてください。

01	現代社会と福祉
02	社会福祉の歴史的形成
03	社会福祉の法律
04	社会福祉の制度と実施体系
05	住民福祉とボランティア
06	社会福祉従事者とその専門性
07	社会福祉における相談援助
08	社会福祉利用者保護と権利擁護
09	子ども家庭福祉
10	高齢者保健福祉
11	障害者福祉
12	社会保障制度・生活保護制度
13	地域福祉
14	医療福祉
15	社会福祉の今後の展望（まとめ）と確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅰ	担当者:川上 知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
昨今、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。
講義（パワーポイント使用）を中心とするが、グループディスカッションなどを取り入れ、意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。

授業の到達目標
社会的養護に関する基礎知識を習得する。
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。
子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各自、教科書を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献や新聞などで学生自身で情報収集を心がける。
特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。

評価方法
確認テスト：60%　中間レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%

教科書	参考図書
社会的養護（学文社）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	児童虐待問題の現状と法制度
03	児童虐待への対応と課題
04	性的虐待とDV
05	アタッチメント
06	社会的養護の役割
07	児童養護施設の現状と課題
08	事例①（グループディスカッション）
09	施設におけるケア実践
10	日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
11	事例②（グループディスカッション）
12	発達障害と愛着障害
13	発達障害児への支援
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:川上 知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 社会的養護の現状と課題、また適切な支援方法について事例から検討する。子ども・家族への個別対応のセオリーを学ぶ他、多職種連携を基盤とするチーム支援の実際と課題について理解を深める。 具体的な事例をもとに事例検討を行う。グループ討議、クラス討議を組み合わせながら意見交換を行い、事例に対する見立てと手立てを考える。
授業の到達目標 社会的養護における支援の実際を事例を通して体感する。 活発な意見交換を通して、多様な考え、価値観に触れ、事例を多面的に捉えられるようになる。 他者との協働（チーム支援）によって支援することの意義や必要なスキルについて学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 社会的養護Ⅰで学んだことの復習を事前に行っておくこと。 事例の提示や問題提起を事前に行う場合があるが、それらについて各自でしっかり考えた上で授業に臨むこと。 「社会的養護」「児童虐待」関連のニュースは、こまめにチェックしておくこと。授業内でディスカッションを行う場合もある。
評価方法 確認テスト：60%　中間レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%

教科書	参考図書
なし（必要に応じてプリントを配布する）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	社会的養護の子どもたちの実際
03	事例検討①（グループディスカッション）
04	事例検討②（グループディスカッション）
05	事例検討③（グループディスカッション）
06	事例の総括、社会的養護の課題
07	児童養護施設における治療的養育
08	確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
この授業科目は、元保育園長の経験を踏まえ、保育者とは何か保育実践をもとに具体的に考えることができるようにする。保育者として子どもともに生活することを職業として選択するということがどういうことなのか自問自答しながら、保育者の役割、保育の専門性およびについて、保育所での実践体験を語ったり、実際の実践例や事例などを通して実践的に学ぶ。また、保育者であると同時に一人の人間として自分の生き方や考え方について常に省察することを意味づける。【AL】

授業の到達目標
保育者として子どもともに生活することを職業として選択するということがどういうことなのか自問自答しながら、保育者の役割、保育の専門性およびについて実践例や事例などを通して学び、保育者になるという自覚を深める。また、保育者であると同時に一人の人間として自分の生き方や考え方について常に省察することができるようにし、保育者の役割について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　関連文献を前期に1冊は読むこと。子ども、教育､保育、家庭に関する新聞記事などに関心を持つ。保育者をめざすという自覚を持って授業に臨むこと。子どもとかかわることを積極的に行い、子どもへの理解を深める。

評価方法
定期試験50%、授業中の課題、小テスト30%　毎回の授業の振り返り20%

教科書	参考図書
保育者になるための道しるべ(学文社)幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育保育要領	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　子どもを取り巻く環境の変化や保育に関する社会の動きに関心を持ち､自ら調べたり考えたりするように努力すること。

01	授業の概要・方針
02	保育とは何か
03	保育者の役割・使命　保育者になるには
04	幼稚園、保育所の歴史、制度　認定こども園について
05	保育者の仕事と役割①　幼稚園教育要領、保育所保育指針　教育保育要領にみる役割
06	保育者の仕事と役割②　　子どもと生活するうえで　子どもを観る目
07	保育者の仕事と役割③　　職員、保護者、子ども、地域との関連について
08	保育の専門性①　子どもの発達を理解する(乳児)
09	保育の専門性②　子どもの発達を理解する(幼児)
10	保育の専門性③ 子どもを守る(子どもの人権に関する法令など)
11	保育の専門性④ 家庭に問題を抱える子どもへの支援
12	保育の専門性⑤ 特別に支援が必要な子どもへの支援
13	保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者に子どものことを伝える 保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう 保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者に子どものことを伝える 保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう 保育者の資質と力量①　ちょっと実践してみよう　保護者に子どものことを伝える
14	保育者の資質と力量②　ちょっと実践してみよう　カリキュラムについて考えてみよう
15	理想の保育者を見つけよう(まとめにかえて)
16	定期試験

2020年度シラバス

科目名:教育心理学	担当者:小川 絢子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの発達と心理を理解し、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。授業の柱は以下の3点です。
①乳児期と幼児期の子どもの発達および心理、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習、③子どもの発達や学習における大人の役割。

授業の到達目標
この授業の目標は、保育実践に関わる教育心理学の基礎的な知識を習得することです。特に、授業概要で述べた3つの観点について理解することを目標とします。
①乳児期と幼児期の子どもの発達および心理、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習、③子どもの発達や学習における大人の役割。また、日常的な子どもの姿から、子どもの発達や心の動きを感じ取る力を身に付けてほしいと思います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から子どもに対する自分の関わりについて振り返り、授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分自身が子どもに関わった経験を考察を行う等の時間を、15回の授業期間中に3回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。15回の授業期間中に3回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）、毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、確認テストの受験資格はありません。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション― 保育実践において教育心理学を学ぶ意味
02	乳児期①― 運動機能および感覚機能の発達
03	乳児期②― 愛着と基本的信頼感の形成
04	乳児期④― コミュニケーションの発達
05	乳児期における生活・あそびと大人の役割
06	幼児期前半①― 1歳半の節目、乳児期から幼児期へ
07	幼児期前半②― 認知とことばの発達
08	幼児期前半③― 自己理解の発達
09	幼児期前半④― 対人関係の発達
10	幼児期後半①― 認知とことばの発達
11	幼児期前半②― 自己理解の発達
12	幼児期前半③― 対人関係の発達
13	幼児期における生活・あそびと大人の役割①
14	幼児期における生活・あそびと大人の役割②
15	授業のまとめと確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:子ども家庭支援の心理学	担当者:小川 絢子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもや保護者の心理を多面的に深く理解し、保育・教育実践に生かす力を育てるための授業です。子どもの発達を踏まえた上で、保育・幼児教育の実践が与える子どもへの影響について考えます。授業の柱は以下の4点です。
①生涯発達について理解する、②家族・家庭の意義や機能と親子や家族関係を発達的な視点で捉える、③子育て家庭をめぐる社会的状況について理解する、④子どもの精神保健とその課題を理解する。グループワークを行う回があります。

授業の到達目標
この授業の目標は、保育実践に関わる教育心理学の基礎的な知識を習得することです。特に、授業概要で述べた3つの観点を理解することを目標とします。
①教育心理学の理論をふまえた保育・幼児教育の実践を理解する、②現代の生活や遊びを通した子どもの経験や学習について理解する、③子どもや保護者の理解を踏まえた発達援助を考える。また、実習等で行った自らの子どもへの関わり方を振り返る力を身に付けてほしいと思います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から子どもに対する自分の関わりについて振り返り、授業での学習と結びつけて考えることを心がけてください。自分自身が子どもに関わった経験を考察を行う等の時間を、16回の授業期間中に3回程度、各30分程度とることが望ましいです。事後学修としては、配布したプリントや感想のまとめ等を読み返し、理解を確実なものにしておきましょう。16回の授業期間中に3回程度、各1時間程度事後学修を行うことが望ましいです。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）、毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、確認テストの受験資格はありません。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション― 子ども家庭支援の心理学とは何か
02	生涯発達① 児童期の発達
03	生涯発達② 青年期の発達
04	生涯発達③ 成人期から老年期の発達
05	家族・家庭の理解① 家族の意義と機能
06	家族・家庭の理解② 親子関係の理解
07	家族・家庭の理解③ 家族関係の理解
08	家族・家庭の理解④ 子育ての経験と親としての育ち
09	子育て家庭に関する現状と課題① 子育てを取り巻く社会的状況
10	子育て家庭に関する現状と課題② ライフコースと仕事・子育て
11	子育て家庭に関する現状と課題③ 多様な家庭とその理解
12	子育て家庭に関する現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭
13	子どもの精神保健とその課題① 精神保健とは
14	子どもの精神保健とその課題② 子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの精神保健とその課題③ どもの心の健康に関わる問題
16	授業のまとめ

2020年度シラバス

科目名:子どもの保健	担当者:亀山 麻衣子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講義は、子どもの心身の健康や発達に応じた保育行動の基礎知識を習得するだけでなく、多様化する家族の在り方から子どもと家族の健康支援に関する知識も習得できる講義を行います。本講義は視聴覚教材も用いて、子どもの発達や多様化する家族の在り方に応じた保健行動がイメージできるよう、学習目標に沿った講義を実施します。また、講義内でグループディスカッションの時間も取り入れていきます。積極的に参加することで、より深い理解と気づきを得ることができます。

授業の到達目標
１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する
４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
本講義に関連する子どもの心身の健康や発達、保健活動、多様化する家族の在り方について、多くの書籍や新聞、何かしらのドキュメントなどに積極的に目を通すようにしてください。

評価方法
講義レポートの提出と出席態度（40%）、確認テスト（30%）、課題レポート（30%）で評価し、全体の60%以上で合格となります。出席態度については、講師が授業妨害と感じた行動や私語について、同日内に2回以上注意した場合に減点対象とします。

教科書	参考図書
講義時に適宜指示します	講義時に適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
わからないことをそのままにせず、すぐに調べる習慣を身に付けてください。また、それでもわからない場合や講師の見解を聞きたい場合には、講義前後に遠慮なく聞きに来てください。

01	オリエンテーション　~本講義の概要、評価方法と基準について~
02	子どもの心身の健康と保健の意義①　生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
03	子どもの心身の健康と保健の意義②　健康の概念と健康指標
04	子どもの心身の健康と保健の意義③　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
05	子どもの心身の健康と保健の意義④　地域における保健活動と子ども虐待防止
06	子どもの身体的発育・発達と保健①　身体発育及び運動機能の発達と保健
07	子どもの身体的発育・発達と保健②　生理機能の発達と保健
08	子どもの心身の健康状態とその把握①　健康状態の観察
09	子どもの心身の健康状態とその把握②　心身の不調等の早期発見
10	子どもの心身の健康状態とその把握③　発育・発達の把握と健康診断
11	子どもの心身の健康状態とその把握④　保護者との情報共有
12	子どもの心身の発達と保健　まとめと確認
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応①　主な疾病の特徴
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応②　子どもの疾病の予防と適切な対応
15	総括
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:吉田 真弓・田村 佳代・未定B	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本に基づいて、総合的に指導するという考え方を理解する。また幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。そして教育・保育内容を実践に即して総合的にとらえることができるように、ＤＶＤ教材を活用したり、グループにおける話し合いや発表をしたりしながら具体的に学ぶ。

授業の到達目標
・乳幼児期の教育・保育においては、子どもの内面を理解することが一番の出発点であることを理解する。
・乳幼児から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージし、総合的な指導の在り方や、保育者の役割を理解する。
・乳幼児の興味や関心、発達に応じた具体的な指導の在り方を、事例を通して理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
現代の幼児を取り巻く社会状況や問題などに関するニュース・新聞等における情報に関心を向け、自分の意見や考えをもつようにしよう。

評価方法
授業への参加態度・授業の振り返り30%、提出物30%、筆記試験40%、による総合評価

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、　レジュメを配布します	幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション、保育内容総論で学ぶこと
02	保育の構造と内容理解①
03	保育の構造と内容理解②
04	保育内容の歴史的変遷
05	育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
06	幼稚園・保育所・認定こども園の1日を理解する
07	環境を通して行う保育とは
08	遊びを通しての総合的指導を理解する
09	家庭や地域との連携
10	幼小連携・接続について考える
11	保育における多文化共生
12	プロジェクトメソッド入門
13	劇遊び活動を考える
14	行事活動への総合的取り組み
15	まとめと確認テスト
16	

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と人間関係」	担当者:吉田 真弓	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
この授業は、幼稚園教育要領・保育所保育指針が示す「人間関係」の領域についての理解を深め、実践に向けての指導力を身に付けることを目的とする。乳幼児期の人と関わる力の発達を理解するとともに、保育者はどのように援助していくとよいか考えていく。
　授業では、基礎的なことを学んだ後で視聴覚教材や事例をもとにグループ討議を行い、他の人の意見を聞くことで多様性を身に付けられるようにする。

授業の到達目標
①　幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されているねらいと内容を理解する。
②　乳幼児期の人との関わりの発達について理解する。
③　人と関わる力を育むための保育方法を考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・授業計画を見て、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説の授業に関係する箇所に目を通しておく。
・乳幼児期の発達について基本的なことを復習したり、事例を読み返して自分の考えをまとめたりしておく。
・ボランティアなどを通して、乳幼児と関わる体験をするように心掛ける。

評価方法
授業への参加態度・ミニレポート　30%　　課題　20%　　テスト50%

教科書	参考図書
レジュメ等を配布	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に積極的に参加し、自分の考えを発表したり自分とは違った考えを取り入れたりしながら、保育者としての力量を身に付けてほしい。

01	オリエンテーション、保育の基本と領域「人間関係」
02	子どもを取り巻く社会の状況
03	領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」
04	乳幼児期の人との関わりの発達①
05	乳幼児期の人との関わりの発達②
06	遊びの中の友達との関わり　ー子どもの自立心ー
07	遊びの中の友達との関わり　ー子どもの自己主張と自己発揮ー
08	遊びの中の友達との関わり　ーいざこざ・トラブルでの成長ー
09	共感・思いやり
10	道徳性の芽生えと規範意識
11	コミュニケーション能力
12	協同性の育ち
13	地域の人々との関わり
14	保護者と保育者の人間関係
15	園内の人間関係　確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と人間関係」	担当者:橋村 晴美	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期の心身の成長および発達において人間関係は大きな影響を持っている。ここでは様々な視点に立ち、乳幼児の豊かな成長・発達を促す人的環境のあり方について学習する。具体的には、グループ討議を通して、乳幼児が家庭・地域社会とどのように関わっているのか、また保育現場における子ども同士のつながり、保育者としての役割・方法の理解を図るため、自身の人間関係力を検証したり、事例に触れたりしながら考えていく。

授業の到達目標
１．乳幼児期の子どもを取り巻く現代的課題（現代的特徴や社会的背景）について理解する。
２．乳幼児期の心身の成長および発達に関する知識を身につける。
３．幼児教育で保障すべき教育的内容についての知識を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を見て、幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書の授業に関係する箇所に目を通しておく。
・乳幼児期の発達について基本的なことを復習したり、事例を読み返して自分の考えをまとめたりしておく。
・ボランティアなどを通して、乳幼児と関わる体験をするよう心掛ける。

評価方法
小レポート　30%　　確認テスト70%

教科書	参考図書
子どもと保育者でつくる人間関係	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業では積極的に自分の考えを発表し、自分とは異なった考えに疑問を抱いたり、その考えを取り入れたりして、保育者としての視野を拡げることに努めて欲しい。

01	人間関係とは何か
02	人間関係を築くために必要な力
03	保育における人間関係
04	保育者がつくる人間関係
05	０歳児における人間関係の発達
06	１歳児における人間関係の発達
07	２歳児における人間関係の発達
08	３歳児における人間関係の発達
09	４歳児における人間関係の発達
10	５歳児における人間関係の発達
11	６歳児における人間関係の発達
12	７歳児の人間関係
13	多様化する人間関係
14	わたしたちの人間関係
15	授業まとめ・確認テスト
16	なし

2020年度シラバス

科目名:国語	担当者:太田 昌孝	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 童話や昔話（伝説）を教材に用いながら、保育者に必要な感受性ならびに基礎的な国語力の育成を主眼に置いた講義を展開する。 講義形式の授業を根幹とするが、読後感および要約などについて、受講者に発表させる機会を設ける。
授業の到達目標 ①　保育者として不可欠な豊かな言語感覚と論理的思考力を身につける。 ②　保育現場で教材として用いる童話の構成および特性について学ぶ
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 ①　日頃から童話や昔話（伝説）に関心を持ち、読む習慣の育成に努める。 ②　日頃から日記や読後感などを書くことを心がけ､作文能力の錬磨に努める。
評価方法 受講態度(20ﾊﾟｰｾﾝﾄ)・レポート(80ﾊﾟｰｾﾝﾄ)を総合的に評価する。

教科書	参考図書
プリントを使用します。	『遠野物語』（柳田国男）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ① 系統的な講義なので欠席をしないようにして下さい。

01	オリエンテーション（保育者に必要な国語力について講義する。）
02	保育と国語①（童話・昔話・伝説の基礎知識について講義する。）
03	保育と国語②（実習生として保育者として身につけておきたい国語力について講義する。）
04	保育と国語②（実習生として保育者として身につけておきたい国語力について講義する。）
05	昔話の世界①（『浦島太郎』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
06	昔話の世界②（『桃太郎』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
07	昔話の世界③（『鬼っ子人っ子』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
08	昔話の世界④（『そうめん地蔵』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
09	昔話の世界⑤（『河童のくれた妙薬』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
10	昔話の世界⑥（『かさじぞう』をDVDで鑑賞し、作品の背景について講義する。）
11	童話の世界①（宮沢賢治の生涯と作品について講義する。）
12	童話の世界②（『どんぐりと山猫』【宮沢賢治】を読み、作品分析を試みる。）
13	童話の世界③（『どんぐりと山猫』【宮沢賢治】について保育の視点からグループ討議をする。
14	童話の世界⑤（『セロ弾きのゴーシュ』【宮沢賢治】について保育の視点からグループ討議）
15	まとめ：保育者に必要な国語力を身につけるために。
16	なし

2020年度シラバス

科目名:算数	担当者:上原 隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教科「算数」は、小学校から導入されるが、数、量、図形の概念などの初歩的理解については様々な遊び等を通じて幼児の頃から形成される。
このような観点に立ち、小学校算数の内容と指導法をふまえつつ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に記されている算数的能力の基礎になる到達目標を理解し、幼児期における算数的能力の習得の意味について考察する。
また講義では、各項目に関わる例題を豊富に取り上げ、演習を通して算数およびその背景にある数学の深い理解も目指す。

授業の到達目標
算数の項目ごとの深い理解を第一目標とし、それらの内容の基礎の幼児期における理解についての考察を通し、幼児教育と保育での活動に算数的内容をどう取り入れていくかについての考え方の基礎を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業前に学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の中の算数的活動の内容について理解するとともに、配布された演習問題についても解いておくこと。
授業後は、演習問題の解法について復習するとともに、学んだ内容に関して幼児教育、保育での活動にどう取り入れていくかについて自分なりに考察すること。

評価方法
15 回目に行う確認テストの点数で評価する。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領・保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもに算数を教えるにあたっては、教える側の深い理解が大切である。
分からないことがあれば担当教員の研究室に質問に来ること。

01	算数教育の目標 - 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針からの考察
02	数と計算1
03	数と計算2
04	数と計算3
05	数量関係1
06	数量関係2
07	数量関係3
08	量と測定1
09	量と測定2
10	量と測定3
11	図形1
12	図形2
13	図形3
14	幼児期における数量的遊び
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:音楽Ⅰ（ピアノ・楽典）	担当者:近藤 茂之・赤松 みどり・佐藤 恭子・高橋 寛樹・長浦 智子・早瀬 順子・國井 真美・満田 有香・武田 恵美・小野 隆司・平野 玲美・高橋 恵理・青木 園恵	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育者に必要な音楽技能の一つであるピアノ実技と、保育現場で求められる子どもの歌弾き歌い、加えて楽典（平易な音楽理論）を学ぶ。
オリエンテーション期間に配布するアンケートにより個々の音楽経験を調査し、それを経て第１回授業後にクラス編成を行い掲示にて発表する。
担当教員による個別指導のもとに１年間の目標を定め、常時練習計画を立てながら学修を進める。
尚、前後期とも、演奏の発表および楽典の筆記テストを行う。

授業の到達目標
バイエル教則本（～No.104まで）の修了、および子どもの歌弾き歌い（別紙、本学指定30曲から）を学修し、着実に自分の「モノ」になるように努力する。
また、マーチ（進行曲集）も採用試験の課題や現場でよく取り上げられるため、他の課題と並行して可能な限り多くの曲を学修すること。
また、楽典については読譜のために必要な最小限の音楽知識を身につけ、現場へ出てからも自分自身の力で作品を正しく解釈し、子どもたちに指導できるようにすること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅にピアノを所有していない学生は、学内の練習室を授業前、昼休み、授業後等の空き時間を有効活用し、日々の練習を欠かさず行うこと。
また、ピアノを所有している学生も、その環境に甘んじず練習に専念すること。
各期、初回授業に配布する「レッスンノート」に毎回の受講曲と指導後の反省を記録し、必ず担当教員の印を受けること。
記入が無い、あるいは十分でない場合は、書き直しまたは受講ができないことがあるので、各自注意すること。
また、楽譜に目を通し「読む」習慣を身につけることにより、ピアノが常に身近になくとも、目の前の課

評価方法
授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い30%　発表（実技）50%　楽典（筆記テスト）20%

教科書	参考図書
レッツ・プレイ・ザ・バイエル（圭文社刊）、幼児の歌130選（繁下和雄編　全国社会福祉協議会刊）進行曲集（大阪開成館刊）、随時配布するプリント他	ブルグミュラー25の練習曲（全音楽譜出版社）など、各種ピアノ曲。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
予習と復習を怠らないこと。担当教員への礼節をわきまえること。日頃から様々なジャンルの音楽に接し、特に割引が有効な、特に実際の演奏を聴き感性を磨く　ことが望ましい。尚、夏期休業前にバイエル80番程度に学修が到達していない学生は、補習指導を行う。また、後期授業終了時までにバイエルが修了しない場合は、単位修得ができないことがある。

01	実技クラス編成調査、楽典のためのガイダンス
02	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
03	レッスン授業（バイエル）、楽典
04	レッスン授業（バイエル）、楽典
05	レッスン授業（バイエル）、楽典
06	レッスン授業（バイエル）、楽典
07	レッスン授業（バイエル）、楽典
08	レッスン授業（バイエル）、楽典
09	レッスン授業（バイエル）、楽典
10	発表曲の決定、楽典
11	発表曲レッスン、楽典
12	発表曲レッスン、楽典
13	発表曲レッスン、楽典
14	発表前リハーサルおよびレッスン
15	発表曲の確認テスト
16	楽典の筆記試験
17	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
18	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
19	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
20	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
21	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
22	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
23	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
24	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
25	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典

26	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
27	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
28	レッスン開始（課題曲の学修）、楽典
29	発表前リハーサルおよびレッスン
30	課題曲の発表
31	楽典の筆記テスト

科目名:図画工作	担当者:高田 吉朗・未定A・淺野 皆子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの造形表現を題材にしながら、造形素材についての研究や正しい道具の扱い方、造形原理を学びます。
平面と立体の実技を半期ごとに体験することで、特定分野の苦手意識を克服し、様々な表現方法を学びます。

授業の到達目標
様々な素材の特徴と表現の方法を知り、つくることの楽しみと造形活動を通して子どもと関わることの重要性を認識する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内に完成できなかった人は時間をみつけて制作すること。
常に子どもにどう伝えるかを想定しながら制作すること。
教科書を使った調べ学習。

評価方法
作品の評価(演習レポート、スケッチブック等を含む)40%、出席状況を含めた受講態度60%

教科書	参考図書
「造形活動おまかせガイド」明治図書	「保育に役立つ絵画あそび技法百科」ひかりのくに、「子供の表現力をグングン引き出す造形ハンドブック」明治図書、「0～５歳児の楽しさはじける表現あそび」明治図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
知的好奇心を養うことが大切です。柔軟な発想と興味の対象を追求する姿勢を心掛けましょう。

01	オリエンテーション、自己紹介カード制作 / 子供にとっての造形(全体説明)
02	三原色で色遊び / やきものの基本(土鈴)
03	紙を使った表現 / やきものの基本(筒人形)
04	平面技法1(ビー玉転がし・バチックなど) / 凧
05	平面技法2(紙版画・マーブリングなど) / お面（説明・構想)
06	平面技法3(スタンピング・コラージュなど) / お面(制作)
07	ポップアップカードの制作1 / お面(着色)
08	ポップアップカードの制作2 / お面(着色、完成、講評)
09	壁面制作1(班分け、内容決め) / 牛乳パックによる工作（説明・構想)
10	壁面制作2(個人部分制作) / 牛乳パックによる工作（制作)
11	壁面制作3(飾り付け) / 牛乳パックによる制作（制作・完成・講評)
12	壁面制作4(発表、講評) / 紙によるお弁当作り（説明・構想)
13	紙を使った表現 / 紙によるお弁当作り（制作)
14	木を感じる・スケッチ / 紙によるお弁当作り（制作・完成・講評)
15	共同制作「木をかこう」 / 作品発表・鑑賞・講評
16	まとめ
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

2020年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:小島　千恵子	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　乳児及び1歳以上3歳未満児の姿を十分に認識し、乳児及び1歳以上3歳未満の子どもがが有能な存在であることを理解する等、乳児保育の基本について考える。講義を聞くことに留まらず、調べ学習や討論などを行い、乳児保育に対する自分の考えやあり方をまとめたりしながら、体験的に乳児保育の基本を学ぶ。

授業の到達目標
　保育現場における乳児及び1歳から3歳未満児の保育に関する基本的事項や保育のねらいや内容について考え、保育を実際に展開できるような乳児保育における基本的な保育の力(理論習得、保育の実際の方法、教材の研究等）を身につける。また、乳児保育についての自分の価値観を持つことができるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　乳児、1歳以上3歳未満児への関心を深めるために、図書館などで、乳児保育の最新情報を入手する。自分がどんな保育がしたいのか、考えるために身近なところでボランティアなど自主的に行うようにする。
座学で学んだことは、必ず復習するようにして、最新的な知識や技術を習得できるように努力する。
主体的な学びを重視するので、小レポート作成や、調べたものを発表する時間を設定して、アクティブに学ぶ機会を多く取り入れる。

評価方法
課題レポート　50%　調べ学習のまとめや発表30%　授業の振り返り20%

教科書	参考図書
乳児保育の基礎と実践　大学図書出版社	保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
調べ学習や授業の振り返り、小レポートは、毎授業に提出

01	イントロダクション　授業の進め方
02	乳児保育とは何か
03	乳児保育の考え方の変遷と成立
04	乳児保育を支える基本　赤ちゃんの1歳までの育ちをふまえて 乳児保育の基本　　0歳児の子どもと保育
05	乳児保育の基本　　1歳児～3歳未満児の子どもと保育
06	生後0か月～6か月未満児について
07	生後6か月～1歳未満児について
08	1歳～2歳未満児について
09	2歳～3歳未満児について
10	乳児保育の実際と課題
11	1歳～3歳未満児保育の実際
12	乳児保育・1歳～3歳未満児の記録
13	乳児保育・1歳～3歳未満児の計画と評価
14	家庭・保育園・地域における子育て支援
15	まとめとこれからの乳児の保育
16	

2020年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅱ	担当者:青山 裕美・川合 真由美	開講学科等	保育科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長
この授業科目では、実務経験を活かし、赤ちゃんについての基礎的な知識と乳児保育の実践の場で求められる保育技術を実践的に学ぶことができるようにする【AL】

乳児及び1歳以上3歳未満児の姿を十分に認識し、乳児及び1歳以上3歳未満の子どもがが有能な存在であることを理解する等、乳児保育の基本について考える。講義を聞くことに留まらず、調べ学習や討論などを行い、乳児保育に対する自分の考えやあり方をまとめ、乳児保育についての保育観を伝えることができるようにする。

授業の到達目標
　保育現場における乳児及び1歳から3歳未満児の保育に関する基本的事項や保育のねらいや内容について考え、保育を実際に展開できるような乳児保育における基本的な保育の力(理論習得、保育の実際の方法、教材の研究等）を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　赤ちゃんへの関心を深めるために、図書館などで、乳児保育の最新情報を入手する。自分がどんな保育がしたいのか、考えるために身近なところでボランティアなど自主的に行うようにする。
座学で学んだことは、必ず復習するようにして、最新的な知識や技術を習得できるように努力する。
主体的な学びを重視するので、小レポート作成や、調べたものを発表する時間を設定して、アクティブに学ぶ機会を多く取り入れる。

評価方法
定期試験　50%　調べ学習のまとめや発表30%　授業の振り返り20%

教科書	参考図書
乳児保育－子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み－　教育情報出版	保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
調べ学習や授業の振り返り、小レポートは、毎回提出を求める

01	イントロダクション　赤ちゃんとは
02	発達に応じたあやし遊び・ふれあい遊び
03	赤ちゃんが喜ぶ遊び（手作りシアターを作る）
04	赤ちゃんが喜ぶ遊び（手作りシアターで遊ぶ） 乳児保育の基本　　0歳児の子どもと保育
05	連絡帳を通した子育て支援
06	園での赤ちゃんの姿を伝える方法
07	赤ちゃんの命を守る
08	まとめ　確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:子どもの健康と安全	担当者:中島 志保	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
子どもの日々の健康観察や集団全体での健康支援を通し、保育における保健活動について学習します。関連するガイドラインに基づき保育における衛生管理や事故防止・安全対策・災害への備えについて場を想定しながら学習を進めます。また保育における養護技術・感染症対策・緊急時における対応について具体的に実践し対応を身に付けます。グループ学習を通し、保育者間における役割分担及び連携についても考えていきます。

授業の到達目標
１．子どもの健康に関する個別対応と集団全体への健康支援について理解する。
２．保育の場を想定した事故防止や安全対策について述べることができる。
３．保育における養護技術、感染症対策、緊急時における対応について理解し行動を述べることができる。
４．グループの中での役割分担を通し、保育者間における連携について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
＜準備学習＞資料・参考図書・関連するガイドラインを読み、演習内容について理解する。技術演習については内容をイメージし、グループ学習では正しい知識を提供できるよう準備しておく。子どもの健康と安全に関心を持ち、新聞やニュースなどから情報収集を心がける。1時間。※日頃から清潔な身だしなみ・手洗いを心がけ、自分自身の健康管理を行う。物品の整理整頓ができるようにしておく。
＜事後学修＞演習を振り返り、保育の場における対応や保育者の役割についてまとめる。1時間。※欠席した場合は授業内容について自己学習し提出する。

評価方法
演習への参加態度50%、課題レポート30%、確認テスト20%　　グループでの協調性も評価点に加味する。演習時の身だしなみが不適切および忘れ物がある場合は演習に参加できない。

教科書	参考図書
授業で指示します。資料を配布します。	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、他授業時に説明します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オリエンテーションで、演習内容（演習室の使い方や使用物品も含む）・身だしなみ・必要物品・注意点等を詳しく説明します。授業開始時間には身だしなみを整えて着席すること。授業の前後の時間に質問等の対応をします。

01	オリエンテーション、健康観察・バイタルサイン測定
02	手洗い、養護技術
03	身体計測・発育評価
04	感染症対策、感染性嘔吐物の処置方法
05	事故防止・安全対策の実際
06	小児の救急演習　心肺蘇生法
07	災害への備え
08	まとめ、確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2020年度シラバス

科目名:教育実習Ⅰ（事前・事後指導）	担当者:小川 絢子・吉田 真弓・橋村晴美・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　教育実習Ⅰは、保育科の3つのディプロマポリシーの修得に向けた重要な実践学習の場であり、本科目はその実習を行うための準備や事後学習を目的とすることから、3つのディプロマポリシー全てに大きく関連する。履修系統図では「教育・保育実習」という分類に配置され、保育現場に触れることで保育職を目指す上での自己課題を認識し、主体的な学習の原動力を得ることを目指している。
　実習は、事前指導、実習、事後指導の三つから構成されている。この授業では、実習の概要について整理をするとともに、教育実習Ⅰに望むために必要な準備と心構えについて、講義や意見交換などから理解する。また、事前指導から実習、事後指導までを通して、自己の課題を明確にし、将来の進路選択に活かすことができるようにする。

授業の到達目標
(1) 学外実習の概要を知るとともに、教育実習Ⅰの意義・目的を理解する。
(2) 教育実習Ⅰの内容を理解し、自らの課題を明確にする。
(3) 教育実習Ⅰにおける子どもへの関わり方、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
(4) 教育実習Ⅰにおける観察、参加、記録の方法や内容について理解するとともに、保育教材の作成や活用の仕方を身につける。
(5) 実習終了後の総括と自己評価により、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　実習での活動は他の科目における学修内容が基礎となることから、全ての履修科目について復習を行うなどして知識・技能の定着を図っておく必要がある。また、日ごろから子どもに関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　授業への取り組み状況（40%）、提出課題（40%）、発表（20%）を総合して評価する。
　到達目標(1),(3)については、授業態度やコメントシート等による授業への取り組み状況から評価する。
　この科目は教育実習Ⅰを実施するのに欠かせない科目のため、原則として全ての時間に出席することが単位認定の最低条件となる。

教科書	参考図書
「実習ハンドブック」、「実習の手引き」（名古屋短期大学実習委員会編）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　資料の提示やレポート等の提出をMoodleで行うことがある。この科目及び教育実習Ⅰについての質問や連絡がある場合は、まず教務課実習担当へ申し出ること。

01	学外実習の概要
02	教育実習Ⅰの意義と概要
03	教育実習Ⅰの内容と課題
04	実習の準備と心構え
05	実習記録の書き方
06	児童文化財について、保育教材の活用
07	付属幼稚園によるオリエンテーション
08	実習の総括と自己評価、課題の明確化
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅰ（付幼）	担当者:小川 絢子・吉田 真弓・橋村　晴美・中川 晶子	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育実習Ⅰは、保育科の3つのディプロマポリシーの修得に向けた重要な実践学習の場であり、3つのディプロマポリシー全てに大きく関連する。履修系統図では「教育・保育実習」という分類に配置され、保育現場に触れることで保育職を目指す上での自己課題を認識し、主体的な学習の原動力を得ることを目指している。実習は１年次の５月から１２月までの間で１週間、本学付属幼稚園において、観察と参加を中心として行う。この実習を通して、保育者の仕事の内容や子どもたちの姿を理解し、保育者としての自分の課題を確かめ、実習後の自覚的、自発的な学習に繋げるものとする。

授業の到達目標
① 子どもと共に生活する中で、幼稚園生活を知る。
② 子どもの発達過程と教師の援助を学ぶ。
③ 幼稚園教育に関する様々な知識・技術の必要性を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習の事前指導を始めとして全ての専門科目が実習と関係する。これらの科目で学んだことをしっかりと身に付けておくこと。また、日ごろから体調管理に気をつけるようにする。

評価方法
　実習施設からの評価（80%）と実習記録・レポート（20%）により総合評価する。

教科書	参考図書
『実習の手引き』名古屋短期大学実習委員会『実習ハンドブック』、『実習の手引き』（名古屋短期大学実習委員会）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「教育実習Ⅰ（事前・事後指導）」の全回を受講していない場合は、実習を行えない。分からないことがある場合は、授業担当者または教務課実習担当へ申し出ること。

01	1日目（8時間） 　園長、副園長による実習オリエンテーション 　幼稚園の概要、環境の理解 2日目（8時間） 　観察実習（一日の生活の流れ、子どもの姿） 3日目（8時間） 　観察実習（教師の援助、子ども同士の関わり） 4日目（8時間） 　観察実習・参加実習（個別の子どもへの援助） 5日目（8時間） 　参加実習（個別の子どもへの援助、集団への働きかけ）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	

26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:保育実習ＩＡ（事前・事後指導）	担当者:新沼英明・上原隆司・小島千恵子・川上知幸	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育実習（施設）は、みなさんが初めて学外で行う実習です。また、社会福祉施設（乳児院、児童養護施設などの児童福祉施設や障害者施設等）ではいわゆる保育所保育や幼稚園での保育とは違った視点での実習が求められます。本科目では児童福祉施設等での実習が円滑に実施され、かつ、児童福祉専門職としての保育士になるための自らの課題を明らかにできるよう、事前・事後の学習を行います。

授業の到達目標
１）保育実習（社会福祉施設）の意義・目的を理解する。
２）社会福祉施設実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
３）実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
４）実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
５）実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ボランティアに積極的に参加することにより、実践力を身につけること。
また、社会福祉施設は子どもや利用者の日常生活を支援します。よってみなさん自身の生活力が求められます。そのため、日頃から挨拶、礼儀等をないがしろにせず、社会人としての最低限の規律と責任感を持つようにしましょう。そのためには遅刻・欠席をしないことはもちろん、課題等に誠実に取り組む姿勢が必要です。

評価方法
授業の受講態度（３５％）、実習計画書・課題レポート等（４０％）、グループでの話し合いや課題に向き合う態度（３０％）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
福祉施設実習の手引き（名古屋短期大学実習委員会作成版）	保育所保育指針解説書・保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
施設実習の事前指導では必要最低限の知識や実習に臨むための技術を学びます。自身が行く施設種別に応じたところでボランティアをすることをお勧めします。

01	オリエンテーション、施設の説明と希望調査（前期に実施）
02	施設実習の意義と目的
03	施設別取り組み①各施設の概要
04	施設別取り組み②実習の自己課題の書き方
05	実習日誌の書き方（実習日誌の意義と時系列の日誌の記載方法について）
06	実習のマナー等について
07	2年生による実習報告会
08	施設実習直前指導
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅰ（児童福祉施設）	担当者:新沼 英明・上原隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 名古屋短期大学保育科 実習細則の規定による		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 保育所ならびに施設の概要を整理し、実習の目的を理解する。 学内での授業の内容を踏まえ、保育現場において保育を体験的かつ実践的に学ぶ。
授業の到達目標 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 すでに学んだ教材内容を踏まえ、子どもの保育、保護者との関係について学ぶ。 保育の計画、観察記録の仕方及び、自己評価について具体的に理解する。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 付属幼稚園実習やボランティア体験などの気付きや学びを整理して自らの実習課題を立てること。 子どもの発達について整理し、わからないところを復習すること。 教材や教材の活用の仕方について考え、自分でできることを積極的に進めること。 実習の事前訪問を通して、事前に準備すべきことを確実に行うこと。 また、実習中は健康管理に留意するとともに、子どもや利用者の人権への配慮を十分に行うこと。
評価方法 実習園の評価（６０％）、実習に関連する課題（３０％）、実習の振り返りと自己評価（１０％）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
福祉施設実習の手引き	保育所保育指針解説書・保育士会倫理綱領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 実習の実施（履修）に関する子細な事項は「名古屋短期大学保育科 実習細則」の規定による。

01	以下の内容について、学外の児童福祉施設で、8日間の宿泊形式の実習または10日間の通所による実習を実施する。 【施設等における実習内容】 ①　施設の役割と機能について知る（1日の流れ、役割と機能） ②　施設で生活する子どもの理解をする（子どもの観察と記録、個々の状態に援助やかかわり） ③　養護内容や生活環境（計画に基づいた活動や援助・子どもの心身の状態に応じた対応、子どもの活動と生活環境・健康管理と安全対策への理解） ④　計画と記録（支援計画の理解と活用。記録に基づく省察と自己評価） ⑤　専門職としての保育
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育基礎演習	担当者:小川 雄二・近藤 茂之・高田 吉朗・高須 裕美・平野 朋枝・吉見 昌弘・小川 絢子・山下 直樹・太田 昌孝・小柳 雅子・上原 隆司・新沼 英明・吉田 真弓・杉山 実加・青山 裕美・小島 千恵子・未定A	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
集団による学習や野菜の栽培などの自然活動・ゼミ旅行やゼミ合宿を行います。学生は、保育基礎演習に主体的に取り組み、挿画に交流や学修を行います。

授業の到達目標
(1)保育学生・社会人としての基礎的学修、生活態度及び感性を身につける。
(2)集団での学修を通し、役割と協力意識を高める。
(3) 研究のための基礎能力の育成の3つの柱をもとに、「保育科セミナー」「個別ゼミ」「学内での芋などの植物の栽培」「合同・共同企画」「児童文化鑑賞会」「修了レポート」などの活動を通して、大学生としての、また保育者・社会人としてのいくつかの能力や態度を身につけていくことを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学内外を問わず、様々な活動に参加しますので、主体的に参加してください。

評価方法
授業への参加態度（出席状況を含む）、発表内容、レポートなどを総合的に評価する。

教科書 適宜紹介します。	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
短い学生生活において保育者としてのあらゆる知識や技能を身につけるためには、毎回の授業への積極的参加が必須条件であるといえます。
基礎演習では保育者はもちろん、一人の社会人として自立するためには何が必要で、何を学べばいいのか考えていきます。単に教員から与えられた情報や課題をこなすだけでは十分ではありません。常に積極的な態度で自らを発信していくことが望ましいといえるでしょう。

01	保育科ゼミ・セミナーガイダンス
02	保育科セミナー（個別ゼミⅠ）
03	保育科セミナー（個別ゼミⅡ）
04	保育科セミナー（個別ゼミⅢ）
05	個別ゼミ（各ゼミごとに活動内容は異なる）
06	個別ゼミ（ゼミごとに図書館入門）
07	個別ゼミ(保育実践演習)
08	個別ゼミ（保育実践演習）
09	個別ゼミ（保育実践演習）
10	研究法入門Ⅰ（修了レポート作成のため）
11	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
12	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
13	個別ゼミ（ゼミごとに個別面談）
14	個別ゼミ（修了レポートテーマ指導）
15	個別ゼミ（修了レポートテーマ登録）
16	個別ゼミ
17	個別ゼミ
18	個別ゼミ
19	合同企画「研究法入門Ⅱ」
20	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
21	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
22	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
23	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
24	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
25	合同企画「2年ゼミ編成ガイダンス・進路を考える」
26	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
27	個別ゼミ（修了レポート個別指導）
28	修了レポート提出
29	個別ゼミ（1年間のまとめ）

30	個別ゼミ（1年間のまとめ）
31	